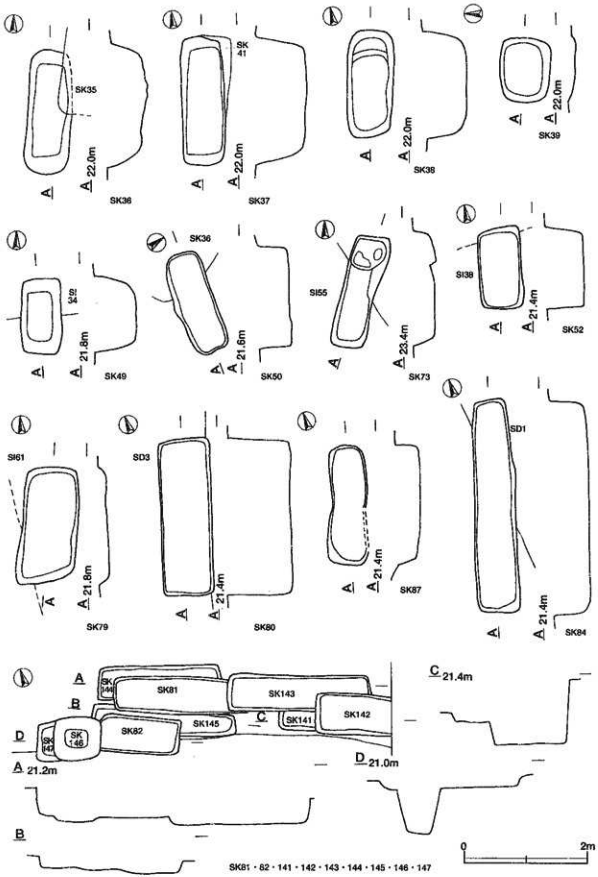
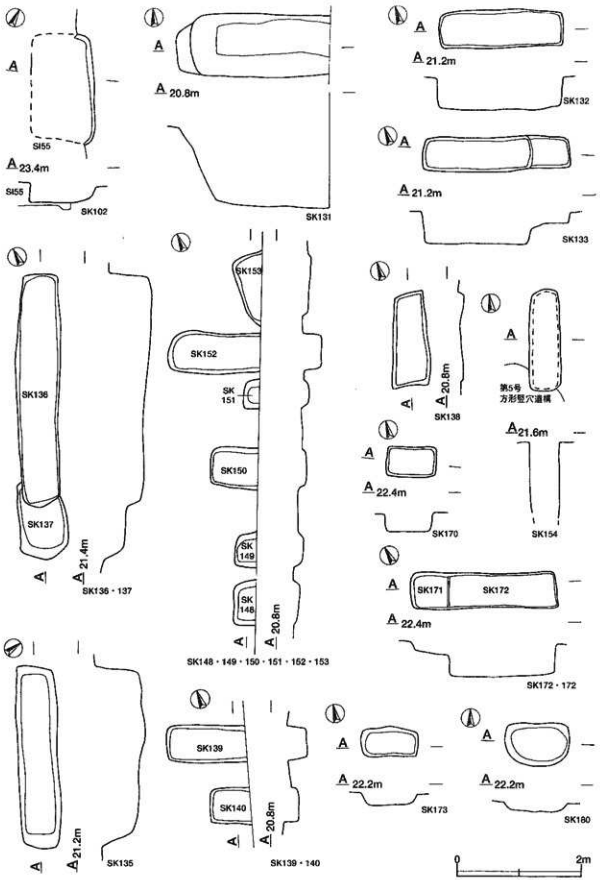
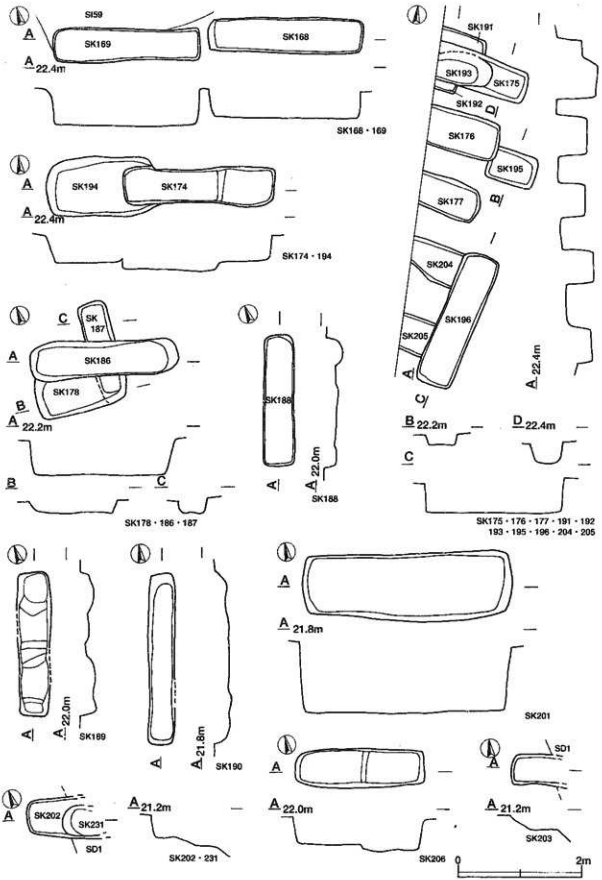


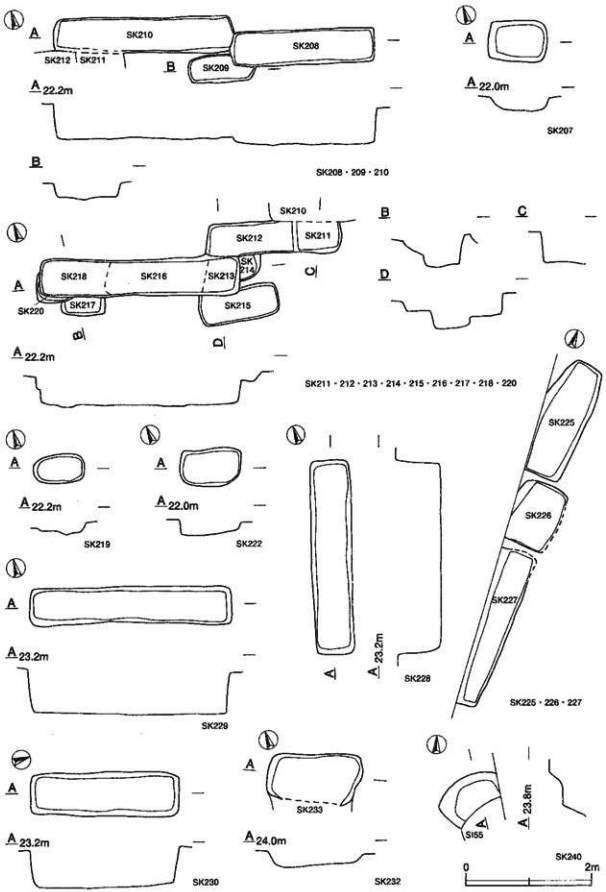
第281図　その他の土坑実測図(5)



第282図　その他の土坑実測図(6)



第283図　その他の土坑実測図(7)



第284図　その他の土坑実測図(8)

第7号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム・ブロック微量

第25号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム・ブロック少量
2 黒 褐 色 ローム・ブロック中量

第27号土坑土層解説
1 暗 褐 色 炭化物・ローム・ブロック少量，焼土粒子微量
2 暗 褐 色 ローム・ブロック少量
3 褐 色 ローム・ブロック少量

第28号土坑土層解説
1 極 暗 褐 色 ローム・ブロック少量

第42号土坑土層解説
1 暗 褐 色 炭化粒子中量，焼土ブロック・軽石粒子・砂粒少量
2 極 暗 褐 色 炭化粒子・砂粒中量，焼土ブロック・軽石粒子少量
3 褐 色 焼土粒子・軽石粒子・砂粒中量，炭化粒子少量，ローム・ブロック微量
4 黒 色 炭化物中量，焼土ブロック・ローム・ブロック少量，砂粒微量

第47号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム・ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム・ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒 色 ローム・ブロック少量

第48号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム・ブロック少量
2 暗 褐 色 ローム・ブロック中量
3 極 暗 褐 色 ローム・ブロック中量

第53号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム・ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム・ブロック中量，焼土粒子微量
3 暗 褐 色 ローム・ブロック多量，焼土粒子微量

第59号土坑土層解説
1 褐 色 ローム・ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐 色 炭化物・ローム・ブロック微量

第60号土坑土層解説
1 褐 色 ローム・ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ローム・ブロック中量，炭化粒子微量
3 褐 色 ローム粒子少量

第61号土坑土層解説
1 褐 色 ローム・ブロック微量
2 褐 色 ローム粒子少量，炭化粒子微量

第62号土坑土層解説
1 褐 色 ローム・ブロック少量
2 褐 色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
3 褐 色 ローム粒子少量

第64号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム・ブロック中量，炭化物少量
2 黒 褐 色 ローム・ブロック中量，炭化物少量，焼土ブロック微量
3 暗 褐 色 ローム・ブロック・炭化粒子少量

第65号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム・ブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
2 暗 褐 色 ローム・ブロック・炭化粒子中量，焼土ブロック少量
3 暗 褐 色 ローム・ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子微量
4 暗 褐 色 ローム・ブロック・炭化粒子少量

第67号土坑土層解説
1 褐 色 ローム・ブロック少量
2 暗 褐 色 ローム・ブロック微量

第68号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム・ブロック微量
2 暗 褐 色 ローム・ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量

第69号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム・ブロック・黒色土粒微量
2 褐 色 ローム・ブロック少量，黒色土粒微量
3 暗 褐 色 ローム・ブロック少量

第70号土坑土層解説
1 褐 色 ローム・ブロック微量
2 褐 色 ローム・ブロック微量
3 暗 褐 色 ローム・ブロック微量

第71号土坑土層解説
1 褐 色 ローム・ブロック微量
2 暗 褐 色 ローム・ブロック・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子微量
4 暗 褐 色 ローム・ブロック・黒色土粒微量
5 褐 色 ローム・ブロック微量

第85号土坑土層解説
1 褐 色 ローム・ブロック微量
2 暗 褐 色 ローム・ブロック微量

第88号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム・ブロック微量
2 黒 褐 色 ローム・ブロック・焼土粒子微量
3 黒 褐 色 焼土ブロック微量

第89号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム・ブロック・焼土粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子微量
3 褐 色 ローム・ブロック微量

第90号土坑土層解説
1 褐 色 ローム・ブロック微量
2 暗 褐 色 ローム・ブロック微量

第91号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム・ブロック微量
2 黒 褐 色 ローム・ブロック・焼土粒子微量

第121号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム・ブロック少量
2 暗 褐 色 ローム・ブロック中量
3 暗 褐 色 ローム・ブロック少量
4 暗 褐 色 ローム・ブロック微量

第124号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム・ブロック少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量

第126号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム・ブロック中量
2 黒 褐 色 ローム・ブロック多量，砂粒少量
3 極 暗 褐 色 ローム・ブロック多量
4 黒 褐 色 ローム・ブロック少量

第127号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム・ブロック中量，焼土粒子微量
2 極 暗 褐 色 ローム・ブロック少量

第285図　第62号土坑出土遺物実測図

第62号土坑出土遺物観察表（第270図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
797	土師質土器	皿	(13.1)	(3.0)	－	石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面横ナデ	覆土上層	10%

表12　その他の土坑一覧表

土坑番号	位置	主軸方向（長軸方向）	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	深さ（cm）	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考（旧→新）
7	B4c2	N－35°－W	［楕円形］	2.19×1.72	10	緩斜	緩斜	人為	瓦器	SD8→本跡
25	B4i6	－	円形	1.10	22	外傾	平坦	人為		SI17・本跡
27	B4b6	N－0°	不整方形	(1.30)×1.24	24	緩斜	平坦	人為		本跡・SK28
28	B4b6	N－5°－E	不整楕円形	1.48×1.22	8	緩斜	平坦	人為		SK27→本跡
42	B4j4	－	円形	1.02×0.95	23	緩斜	平坦	人為	土師器片	SI15・16・本跡
47	D4h3	－	［円形］	[1.10]×1.03	50	直立	平坦	人為		SI38・SD1→本跡
48	D4i3	－	円形	1.04×1.00	30	外傾	平坦	人為		SI38・本跡
53	D4h2	－	円形	1.07×0.97	48	直立	平坦	人為		SI38→本跡
59	D4a4	－	円形	0.96×0.94	36	外傾	平坦	人為		
60	D4b4	－	円形	1.04×1.02	10	緩斜	平坦	人為		
61	D4c4	－	円形	1.07×0.98	34	直立	平坦	人為		
62	D4c4	－	円形	0.93×0.91	15	緩斜	平坦	人為	土師質土器片	
64	D4a4	－	円形	1.03×0.97	25	緩斜	平坦	人為		SD2・SD2号方形張穴遺構→本跡
65	D4a4	－	円形	1.17×1.07	42	緩斜	平坦	人為		第2号方形竪穴遺構→本跡
67	D4h3	－	［円形］	0.89×[0.82]	30	外傾	平坦	人為		SD1→本跡
68	D4h4	－	円形	0.86×0.84	8	緩斜	平坦	人為		
69	D4i3	－	円形	1.04×0.98	54	直立	平坦	人為		SD1・SK70→本跡
70	D4i4	－	円形	0.92×0.89	24	外傾	平坦	人為		本跡→SK69
71	D4i4		円形	1.08×1.06	36	外傾	平坦	人為		
85	D4i4	－	円形	0.99×0.95	29	外傾	平坦	人為		SI69・SK88・本跡
88	D4j4	－	円形	1.08×[1.02]	57	外傾	平坦	人為		SI69→本跡・SK85・89
89	D4j4	－	円形	1.16	21	緩斜	平坦	人為		SI69・SK88→本跡
90	D4i4		円形	1.02×0.95	31	外傾	平坦	人為		SI69・本跡
91	D4i4	－	円形	0.95×0.90	16	緩斜	平坦	人為		SI69→本跡
121	D4i2	－	円形	1.47×1.45	71	外傾	平坦	人為		
124	C4d6	－	円形	0.84×0.80	20	外傾	平坦	人為		SB375→本跡
126	C4e7	－	円形	1.21×1.16	37	直立	平坦	人為		
127	C4e7	－	［円形］	1.04×(0.77)	24	直立	平坦	人為		
1	A3g4	N－72°－W	不整長方形	1.70×0.84	4	緩斜	平坦	人為		SI1→本跡
2	B3j2	N－25°－E	長方形	2.64×0.91	102	直立	平坦	人為	火打金	本跡・SK6
3	B3j3	N－22°－E	長方形	1.64×0.69	79	直立	平坦	人為		
4	B3j3	N－17°－E	長方形	3.43×0.64	81	直立	平坦	人為	縄管	
5	B3j2	N 72°－W	［長方形］	(1.22)×0.82	84	直立	平坦	人為		SK6・本跡
6	B3j2	N－12°－E	長方形	3.07×0.65	72	直立	平坦	人為		SK2→本跡・SK5
8	B4f2	N－7°－W	不整長方形	1.38×0.80	30	外傾	平坦	人為		SD8・SK15→本跡
9	B3d0	N－12°－E	長方形	2.18×0.95	95	直立	平坦	人為		

土坑番号	区画	主軸方向（長軸方向）	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	深さ（cm）	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考（出・番）
10	B3d0	N－9°－E	長方形	2.11×0.87	22	外傾	平坦	人為		
11	B3c0	N－9°－E	長方形	2.11×1.12	57	直立	平坦	人為		
12	A4i1	N－90°－W	不整長方形	2.92×0.78	96	直立	凹凸	人為		SK13・14→本跡
13	A4i1	N 55°－E	〔長方形〕	0.98×(0.50)	38	外傾	平坦	人為		SK14→本跡・SK12
14	A4j1	N－6°－E	〔長方形〕	0.92×(0.48)	36	外傾	平坦	人為		本跡・SK13・14
15	B4f3	N－8°－W	長方形	1.42×0.88	26	外傾	平坦	人為		SD8・本跡・SK8
29	A4g3	N－11°－W	不整長方形	1.78×0.94	38	直立	平坦	人為	土師質土器片	
31	D4e6	N 82°－E	〔長方形〕	(2.32)×0.62	97	直立	平坦	人為	混面子	SI33・SO2・SK54→本跡
32	D3a0	N－10°－E	長方形	2.02×0.94	63	直立	平坦	人為		
33	D3b9	N－8°－E	長方形	(0.90)×0.68	16	直立	平坦	人為		
34	D3b0	N－14°－E	長方形	1.52×0.79	71	直立	平坦	人為		
35	D3c9	N 6°－E	長方形	2.25×1.05	115	直立	平坦	人為		SK36→本跡
36	D3c9	N－4°－E	長方形	2.02×0.74	52	外傾	平坦	人為		本跡→SK35
37	D3d9	N－9°－E	長方形	2.10×0.50	82	直立	平坦	人為		SK41・本跡
38	D3d9	N－8°－E	長方形	1.74×0.65	74	直立	凹凸	人為		
39	D3d9	N－82°－W	長方形	1.04×0.80	6	緩斜	平坦	人為		
41	D3d9	N－12°－E	〔長方形〕	(1.28)×0.58	(42)	直立	〔平坦〕	人為		本跡→SK37
49	D3g0	N 2°－E	長方形	1.25×0.66	65	直立	平坦	人為		SI34・本跡
50	D4j2	N－74°－W	長方形	1.67×0.56	48	直立	平坦	人為		SI36→本跡
52	D4h2	N 13°－E	長方形	1.35×0.69	55	直立	平坦	人為		SI38・本跡
73	C3b3	N－18°－E	長方形	1.86×0.52	16	外傾	平坦	人為		SI65→本跡
79	D3i5	N－16°－W	長方形	1.92×0.92	20	外傾	平坦	人為		SI61・本跡
80	E4c3	N 20°－E	長方形	2.56×0.84	50	直立	平坦	人為		SI66・SD1・3・4→本跡
81	D4j4	N－70°－W	〔長方形〕	2.16×0.58	50	直立	平坦	人為		SK144・145・本跡・SK143
82	D4j4	N－71°－W	〔長方形〕	1.31×0.60	22	外傾	平坦	人為		SD3・SK145・本跡→SK146
84	E4e3	N－23°－E	長方形	3.50×0.66	60	直立	平坦	人為		SD1→本跡
87	E4e3	N 25°－E	〔長方形〕	(1.98)×0.56	40	直立	平坦	人為		SD1・本跡
102	C3b3	N－28°－W	〔長方形〕	1.72×1.00	28	外傾	平坦	人為		SI55→本跡
131	D4a6	N－85°－W	長方形	(2.45)×1.00	129	外傾	平坦	人為		
132	D4j4	N－70°－W	長方形	2.06×0.61	54	直立	平坦	人為		
133	D4j4	N－72°－W	長方形	2.42×0.54	52	直立	平坦	人為		
135	E4a5	N－77°－W	長方形	2.96×0.69	78	外傾	凹凸	人為		
136	E4b4	N 20°－E	長方形	3.78×0.63	68	直立	平坦	人為		SK137・本跡
137	E4b4	N－15°－E	長方形	1.20×0.78	38	外傾	平坦	人為		本跡→SK136
138	D4j5	N－9°－E	長方形	1.44×0.50	10	外傾	平坦	人為		
139	D4j5	N－81°－W	〔長方形〕	(1.28)×0.60	33	直立	平坦	人為		
140	D4j5	N－80°－W	〔長方形〕	(0.65)×0.58	25	直立	平坦	人為		
141	E4a5	N 70°－W	〔長方形〕	(0.61)×(0.34)	16	外傾	平坦	人為		本跡・SK142・143
142	E4a5	N－68°－W	〔長方形〕	(1.24)×(0.67)	38	直立	平坦	人為		SK141・143→本跡
143	E4a5	N－73°－W	〔長方形〕	2.36×0.59	38	直立	平坦	人為		SK141→本跡・SK142
144	D4j4	N－73°－W	〔長方形〕	1.98×0.62	44	外傾	平坦	人為		本跡→SK81
145	D4j4	N－69°－W	〔長方形〕	2.33×1.36	20	外傾	凹凸	人為		本跡・SK81・82・147
147	D4j4	N－73°－W	〔長方形〕	(0.26)×0.64	16	外傾	平坦	人為		SD3・本跡→SK146
148	D4j6	N－13°－E	〔長方形〕	(0.36)×0.53	9	外傾	平坦	人為		
149	D4i6	N－16°－E	〔長方形〕	(0.37)×0.58	15	外傾	平坦	人為		
150	D4i6	N 17°－E	〔長方形〕	(0.78)×0.66	13	外傾	平坦	人為		

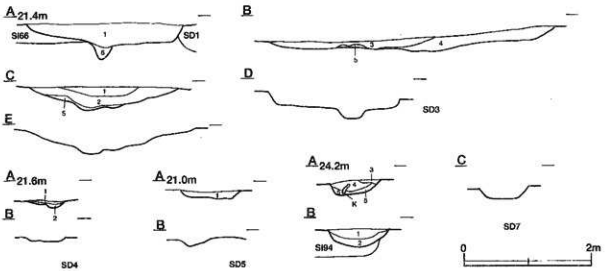
土坑番号	位置	主軸方向（長軸方向）	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	深さ（cm）	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考（旧→新）
151	D 4 1 6	N－14°－E	［長方形］	(0.25)×0.47	11	外傾	平坦	人為		
152	D 4 1 6	N－16°－E	［長方形］	(1.48)×(0.60)	30	直立	平坦	人為		
153	D 1 h 6	N－85°－E	［長方形］	(1.14)×(0.51)	10	外傾	平坦	人為		
154	D 3 j 0	N－14°－E	長方形	1.65×0.47	(125)	直立	不明	人為		第5号方形竪穴遺構・本跡
168	D 3 f 5	N－70°－W	長方形	2.47×0.52	45	直立	平坦	人為		
169	D 3 f 5	N－72°－W	長方形	2.37×0.45	58	直立	平坦	人為		SI59→本跡
170	D 3 f 5	N－78°－W	長方形	0.79×0.48	35	直立	平坦	人為		
171	D 3 f 4	N－72°－W	［長方形］	(0.61)×0.60	19	直立	平坦	人為		本跡・SK172
172	D 3 f 4	N 72°－W	長方形	1.78×0.53	58	直立	平坦	人為		SK171→本跡
173	D 3 g 4	N－75°－W	長方形	0.91×0.43	21	外傾	平坦	人為		
174	D 3 f 4	N－78°－W	長方形	2.42×0.54	28	直立	凹凸	人為		SK194・本跡
175	D 3 f 3	N－73°－W	［長方形］	(1.53)×0.55	41	外傾	平坦	人為		SK192・193・本跡
176	D 3 f 3	N 76°－W	［長方形］	(1.17)×0.68	56	直立	平坦	人為		SK195→本跡
177	D 3 f 3	N－73°－W	［長方形］	(1.01)×0.59	42	外傾	緩斜	人為		
178	D 3 g 3	N－88°－W	［長方形］	(1.48)×(0.67)	22	外傾	平坦	人為		本跡・SK187・SK186
180	D 3 h 6	N－80°－W	不整長方形	1.04×0.68	15	外傾	凹凸	人為		
186	D 3 g 3	N－73°－W	長方形	2.39×0.76	58	直立	平坦	人為		SK178・SK187・本跡
187	D 3 g 3	N－5°－E	長方形	1.61×0.44	25	直立	平坦	人為		SK178→本跡→SK186
188	D 3 g 7	N－18°－E	長方形	2.13×0.51	20	外傾	皿状	人為		
189	D 3 h 8	N－19°－E	長方形	2.34×0.51	26	外傾	凹凸	人為		
190	D 3 h 9	N－15°－W	長方形	2.78×0.42	25	外傾	凹凸	人為		
191	D 3 f 3	N－76°－W	［長方形］	(0.75)×(0.23)	43	直立	平坦	人為		本跡・SK175・SK192・SK193
192	D 3 f 2	N－76°－W	［長方形］	(0.36)×(0.16)	65	直立	平坦	人為		SK191・SK175・本跡・SK193
193	D 3 f 3	N－86°－W	［長方形］	(0.90)×0.53	75	外傾	平坦	人為		SK191・SK175・SK192→本跡
194	D 3 g 3	N－82°－W	隅丸長方形	[1.80]×0.94	48	直立	平坦	人為		本跡・SK174
195	D 3 f 3	N－76°－W	長方形	0.80×0.52	20	外傾	皿状	人為		本跡→SK176
196	D 3 g 3	N－20°－E	長方形	2.27×0.63	53	直立	平坦	人為		SK204・205・本跡
201	D 3 j 9	N－76°－W	長方形	3.38×1.00	115	直立	平坦	人為		
202	D 4 j 3	N 72°－W	［長方形］	(1.11)×0.58	34	直立	平坦	人為		SD1→本跡・SK231
203	D 4 j 3	N－78°－W	［長方形］	(0.76)×0.48	23	緩斜	平坦	人為		SD1・本跡
204	D 3 g 2	N－76°－W	［長方形］	(0.85)×0.62	50	直立	平坦	人為		本跡→SK196
205	D 3 g 2	N 75°－W	［長方形］	(0.53)×0.58	36	直立	平坦	人為		本跡→SK196
206	D 3 h 6	N－75°－W	長方形	2.10×0.63	54	直立	平坦	人為		
207	D 3 h 5	N－75°－W	長方形	0.94×0.66	24	外傾	平坦	人為		
208	D 3 h 4	N 73°－W	長方形	2.33×0.54	60	直立	平坦	人為		SK209・210・本跡
209	D 3 h 4	N 73°－W	長方形	1.07×0.44	24	直立	凹凸	人為		本跡・SK208
210	D 3 g 4	N 73°－W	長方形	2.90×0.54	60	直立	皿状	人為		SK211・本跡・SK208
211	D 3 g 4	N－18°－E	［長方形］	(0.50)×0.80	51	直立	平坦	人為		本跡→SK210・212
212	D 3 g 4	N－72°－W	［長方形］	(1.37)×0.50	40	直立	平坦	人為		SK211→本跡→SK214
213	D 3 g 3	N 25°－E	［長方形］	(0.58)×0.63	50	直立	平坦	人為		SK214・本跡・SK215・216
214	D 3 g 3	N－20°－E	［長方形］	(0.32)×(0.40)	16	外傾	平坦	人為		本跡・SK212・213
215	D 3 h 3	N 78°－W	長方形	1.28×0.53	24	直立	凹凸	人為		本跡→SK213
216	D 3 g 3	N－70°－W	［長方形］	(1.58)×0.55	54	直立	平坦	人為		SK213・218→本跡
217	D 3 g 3	N－68°－W	［長方形］	(0.32)×0.73	22	外傾	平坦	人為		本跡→SK218・220
218	D 3 g 3	N－70°－W	［長方形］	(1.08)×0.58	53	直立	凹凸	人為		SK217・SK220→本跡・SK216
219	D 3 g 3	N－72°－W	不整長方形	0.82×0.47	17	外傾	皿状	人為		

土壙番号	区画	主軸方向（長軸方向）	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	深さ（cm）	壁面	底面	歯牙	出土遺物	備考（出：→痕）
220	D3g3	N－68°－W	［長方形］	(0.47)×(0.45)	19	直立	平坦	人為		SK217·218→本跡
222	D3h7	N－67°－W	長方形	0.96×0.61	25	外傾	凹凸	人為		
225	C3e3	N－7°－E	長方形	1.95×0.81	67	直立	平坦	人為		SB6・本跡
226	C3c3	N－11°－E	長方形	1.08×0.79	81	直立	平坦	人為		SB6→本跡
227	C3f3	N－1°－E	長方形	2.58×(0.54)	114	直立	平坦	人為		SB6→本跡
228	C3a6	N－22°－E	長方形	3.12×0.63	68	直立	平坦	人為		
229	C3b5	N－76°－W	長方形	3.22×0.58	74	直立	平坦	人為		
230	C3b4	N－16°－W	長方形	2.37×0.72	61	直立	平坦	人為		
231	D4j3	N－49°－W	［長方形］	(0.53)×(0.50)	6	緩斜	平坦	人為		SD1・SK202→本跡
232	C2a2	N－73°－W	隅丸長方形	1.48×0.72	22	緩斜	緩斜	人為		SK233→本跡
240	C3b1	N－58°－E	不整長方形	(0.53)×1.03	18	緩斜	平坦	人為		SI55→本跡
43	D4d5	N－25°－W	不整楕円形	1.07×(0.35)	33	緩斜	凹凸	－		SI32・SD2→本跡
44	D4c5	N－30°－W	不定形	1.69×(0.37)	26	緩斜	緩斜	－	土師器片	SI32・SD2→本跡
45	D4e5	－	円形	0.46	50	直立	U字状	－		SI32→本跡
46	D4f6	N－32°－W	楕円形	1.00×0.21	20	緩斜	平坦	－		SI33・SD2→本跡
51	D4e3	N－79°－W	［楕円形］	[1.10]×0.66	58	直立	平坦	－		SD1・本跡
54	D4e6	N－7°－W	［楕円形］	1.60×(0.98)	12	緩斜	平坦	－		SI33・SD2→本跡→SK31・46
56	C4f5	－	円形	0.54×(0.53)	20	緩斜	平坦	－		本跡→SK57
57	C4e5	N－88°－W	不整楕円形	1.60×0.52	20	外傾	平坦	－		SI40・SK56・本跡
58	C4e5	－	円形	0.56×0.52	24	外傾	平坦	－		SI40→本跡
66	D4d4	N－3°－E	隅丸長方形	2.27×1.10	10	緩斜	平坦	－		
74	C4c1	－	円形	0.39×0.38	32	外傾	U字状	－		
75	C4b1	N－60°－E	楕円形	0.41×0.35	29	外傾	U字状	－		
77	C3b0	N－24°－E	楕円形	0.36×0.31	20	緩斜	U字状	－		
78	C3b0	－	円形	0.71×0.70	26	緩斜	凹凸	－		
83	E4e2	N－31°－E	楕円形	0.48×0.38	29	緩斜	平坦	－		SD3→本跡
92	D3j4	N－63°－E	楕円形	0.64×0.46	16	外傾	平坦	－		
93	D3j4	N－27°－W	楕円形	0.90×0.78	10	緩斜	平坦	－		
103	C4i4	N－55°－W	不整楕円形	1.47×1.20	11	緩斜	平坦	－	土師器片	SD2→本跡
119	E4c2	N－3°－E	不整楕円形	0.44×0.36	38	外傾	平坦	－		SI66・SD3・本跡
120	E4b2	N－26°－W	不整楕円形	0.64×0.39	36	外傾	凹凸	－		SI66・本跡
130	C4e6	N－3°－W	楕円形	1.17×0.51	13	緩斜	皿状	－		
134	E4a4	－	不整方形	0.81×0.80	34	外傾	平坦	－		
146	D4j4	－	方形	0.77×0.60	106	外傾	平坦	－		SK82・145・147・SD3→本跡
155	E3d7	N－9°－E	隅丸方形	0.57×0.56	15	緩斜	平坦	－		
158	E3d8	N－18°－E	隅丸方形	0.71×0.67	20	外傾	平坦			SK159→本跡
160	E3f8	－	円形	0.65×0.64	71	外傾	平坦			
161	E3c0	－	不整円形	0.80×0.73	17	緩斜	凹凸	－		
162	E3g9	－	隅丸方形	0.76×0.70	24	直立	凹凸	－		
163	E3h0	N－18°－E	隅丸長方形	0.79×0.67	38	直立	凹凸			
164	E4g1	N－25°－E	隅丸長方形	0.83×0.71	20	外傾	凹凸	－		
165	E4e1	－	隅丸方形	0.75×0.72	39	直立	凹凸	－		
166	E3d0	－	隅丸方形	0.76×0.74	30	直立	凹凸	－		
182	E3c9	－	隅丸方形	0.74×0.70	22	直立	平坦	－		
183	C4e6	N－4°－E	［不整楕円形］	(0.85)×0.78	20	緩斜	平坦	－		SB5?2・本跡
184	C4f5	N－88°－W	楕円形	0.88×0.61	36	外傾	平坦	－		

土坑番号	位置	主軸方向（長軸方向）	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	深さ（cm）	壁面	底面	埋土	出土遺物	備考（古→新）
185	E4b1	－	方形	0.71×0.71	34	外傾	平坦			
197	D3j8	－	方形	0.72×0.69	21	直立	平坦	－		
198	E3a8	－	方形	0.77×0.75	30	外傾	平坦			
199	E3a6		円形	0.65×0.63	20	緩斜	平坦	－		
223	C3i5	N 17°－W	楕円形	1.26×0.68	15	外傾	皿状	－		
224	C3i5	－	円形	1.59×1.50	85	外傾	皿状	－		
233	C2h2	N－67°－W	不定方形	1.24×1.09	16	緩斜	平坦			本跡・SK232
236	C2h0	N 32°E	楕円形	0.94×0.73	41	緩斜	凹凸	－		本跡→SB19P3
239	C3f1	N－46°－E	楕円形	0.78×0.70	33	外傾	皿状	－		
247	C2c8	N－39°－W	楕円形	0.73×0.48	80	外傾	凹凸			SB5・本跡
248	C1b7	N－27°W	楕円形	0.76×0.55	34	外傾	U字状	－		SB17→本跡
249	C4f5	N－38°－E	楕円形	0.45×0.37	62	外傾	U字状			SB5P5・本跡

(2) 溝 跡

当遺跡からは，奈良・平安時代の項で紹介した第２・６・８号溝と中世の項で紹介した第１号溝を除いて４条の溝が検出されている。第３号溝は調査区の南部を北北東に直線的に延びた後，第１号溝を掘り込んでほぼ直角に東に屈曲している。底面中央には溝状の掘り込みがあり，排水施設の可能性が考えられるが，性格は不明である。第４号溝は第１・３号溝を掘り込んでほぼ東に延びており，第３号溝より新しい時期のものであるが性格は不明である。調査区の南部を北北東に延びる第５号溝，調査区の西部を北北西に延びる第７号溝は，いずれも時期・性格が不明である。以下，これらの溝について，平面図は全体図に示し，土層断面図と一覧表を記載する。



第286図　第３・４・５・７号溝実測図

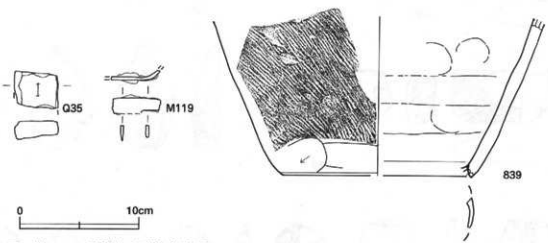
第３号溝土層解説

1	褐	色	ローム粒子・炭化物・焼土粒子微量	4	暗褐	色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
2	褐	色	ロームブロック少量，炭化物微量	5	褐	色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
3	暗褐	色	炭化物・ロームブロック微量	6	黒	色	ロームブロック微量

第4号溝土層解説
1 暗　褐　色　ローム粒子微量
2 褐　　色　ロームブロック微量

第5号溝土層解説
1 黒　褐　色　ロームブロック微量
2 灰　褐　色　ロームブロック微量

第7号溝土層解説
1 黒　　色　焼土粒子・ローム粒子微量
2 黒　褐　色　ロームブロック微量
3 黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗　褐　色　焼土粒子・ローム粒子微量
5 褐　　色　焼土粒子・ローム粒子微量



第287図　第3・7号溝出土遺物実測図

第3号溝出土遺物観察表（第287図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q35	砥石	(3.2)	3.7	1.5	(24.1)	凝灰岩	弧面1面	覆土中	

番号	器種	全長	刀身長	身幅	重ね	茎長	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M119	刀子	(4.1)	(2.6)	1.3	0.3	(1.5)	(5.0)	鉄	刃部・茎部欠損，片関	覆土中	

第7号溝出土遺物観察表（第287図）

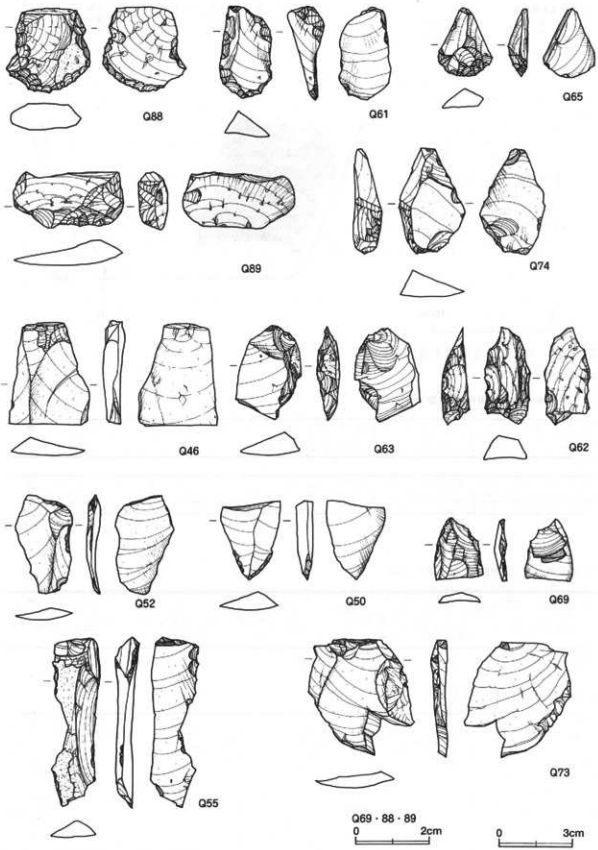
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
839	須恵器	甕	－	(13.4)	[16.2]	雲母・長石・石英	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き，下位ヘラ削り，内面ヘラナデ，当て具痕	覆土下層	10%

表13　その他の溝一覧表

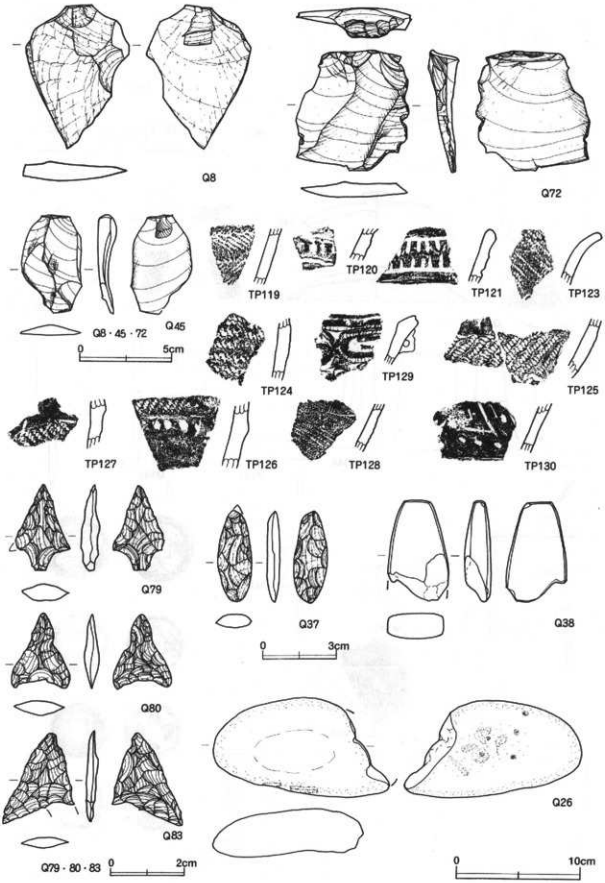
遺構番号	位置	主軸方向	形状	規模（m） 確認長	上幅	下幅	深さ	断面	底面	覆土	主な出土遺物	備考（旧→新）
3	E4a5～E4i1	N－75°－W N－20°－E	L字状	(43.02)	1.06～3.02	0.08～0.26	0.38～0.58	皿状	U字状	自然	土師器	SI66・70→本跡→SK80・82・83・141・146・147・163
4	E3d0～E4c5	N－82°－W	直線	(17.98)	0.22～0.70	0.10～0.52	0.07～0.11	皿状	平坦	自然		SI65・66・SD1・3→本跡→SK80
5	E3a5～E3c4	N－4°－E	直線	(11.20)	0.50～1.08	0.10～0.58	0.08～0.12	皿状	平坦	自然		
7	C1a5～C1f8	N－5°－W	直線	19.82	0.42～0.98	0.25～0.62	0.14～0.30	皿状	平坦	自然	須恵器	SI93・94・97→本跡

(3) 遺構外出土遺物

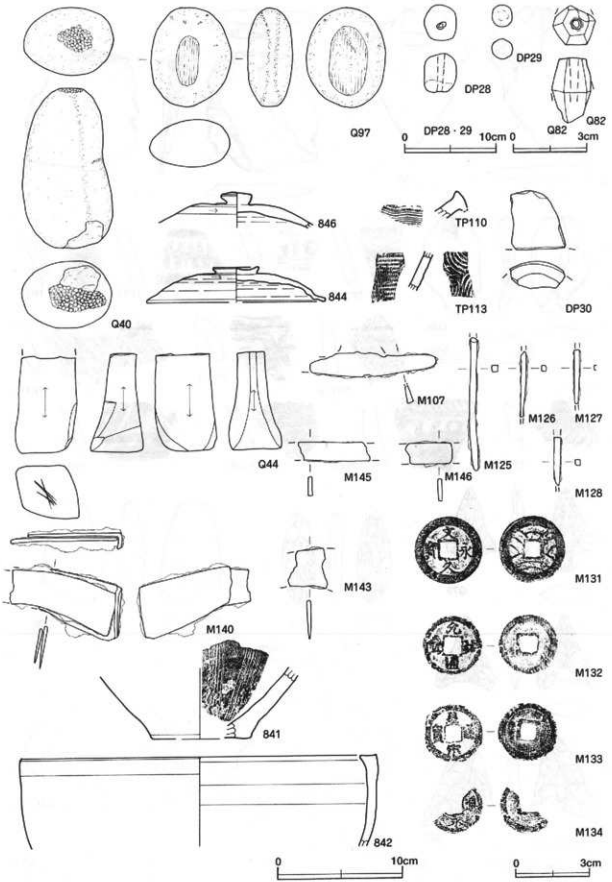
今回の調査で出土した遺構に伴わない主な遺物について，遺物観察表で記述する。



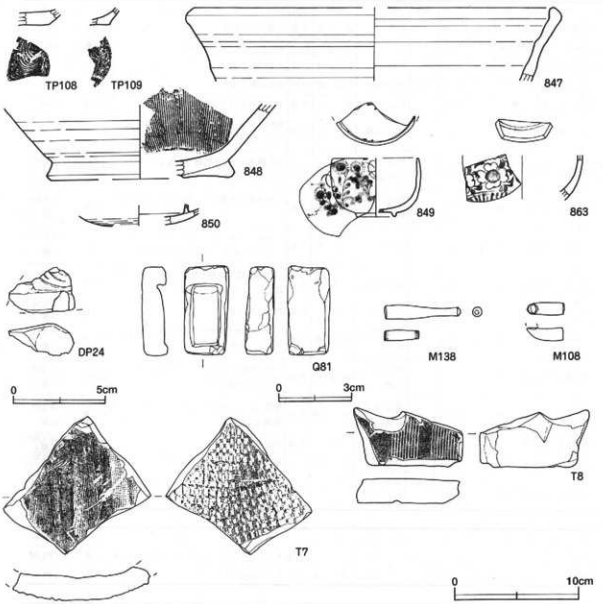
第288図　遺構外出土遺物実測図(1)



第289図　遺構外出土遺物実測図(2)



第290図　遺構外出土遺物実測図(3)



第291図　遺構外出土遺物実測図(4)

遺構外遺物観察表（第288～291図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
841	土師質土器	擂り鉢	－	(5.8)	〔7.8〕	雲母・長石・石英・赤色粒子	暗赤褐	普通	8条1単位の擂り目	遺物包含層	5%
842	土師質土器	内耳土器	〔29.0〕	(7.3)	－	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁横ナデ，体部内・外面ナデ	A4c2縁辺部	5%
844	須恵器	蓋	〔14.4〕	2.9	－	雲母・長石・石英	灰	良好	天井部右回りの回転ヘラ削り	表土中	40%
846	須恵器	蓋	－	(2.8)	－	雲母・長石・石英	灰白	良好	天井部右回りの回転ヘラ削り	表土中	30%
847	陶器	擂り鉢	〔29.0〕	(5.9)	－	長石・赤色粒子	暗赤褐	普通	11条1単位の擂り目	表土中	5%
848	陶器	擂り鉢	－	(5.9)	〔14.4〕	緻密	暗赤褐	良好	14条1単位の擂り目	表土中	10%
849	磁器	染付丸椀	〔7.1〕	4.8	〔3.0〕	白	白	良好	染め付け草花文，透明釉	表土中	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
850	陶器	灯明皿	－	(1.2)	－	緻密	暗赤褐	普通	鉄釉, 往切貼付	B3d4層認面	5%
863	磁器	染付丸碗	－	(3.5)	－	白	白	良好	染め付け草花文, 透明釉	SI51覆土中	10%
TP108	土師質土器	小皿	－	(0.8)	－	雲母	にぶい橙	良好	底部回転糸切り	表土中	
TP109	土師質土器	小皿	－	(1.2)	(5.2)	雲母・赤色粒子	にぶい橙	良好	底部回転糸切り	表土中	
TP110	須恵器	甕	－	(2.2)	－	長石・石英	褐灰	普通	頸部外面多方向の平行叩き, 内面同心円の当て具痕	A4g1層認面	PL55
TP113	須恵器	甕	－	(3.2)	－	長石・小礫	褐灰	普通	体部外面多方向の平行叩き, 内面同心円の当て具痕	表土中	
TP119	縄文土器	深鉢	－	(4.6)	－	雲母・長石・石英・礫	にぶい橙	普通	羽状縄成を なす単節縄文を施文し, その上に結節文を施文	SI36覆土下層	縄文時代中期前葉, PL63
TP120	縄文土器	深鉢	－	(2.5)	－	雲母・赤色粒子・小礫	明赤褐	普通	結節沈線文を施文し, 横位の指頭痕を持つ	SI40覆土中	縄文時代中期前葉, PL63
TP121	縄文土器	深鉢	－	(4.4)	－	長石	にぶい橙	普通	口縁片, 沈線によって楕位区画し, 区画内に上下から棒状工具による沈線文を施文	SI56覆土下層	縄文時代中期前葉?, PL63
TP123	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	雲母・長石	橙	普通	口縁部に縄文原体を押圧, 口縁部から胴部にかけて単節縄文を施文	SI62覆土中	縄文時代中期前葉, PL63
TP124	縄文土器	深鉢	－	(5.3)	－	雲母・長石	橙	普通	無糸文を施文	SI6覆土中	縄文時代中期前葉, PL63
TP125	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	－	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	口縁部の無文帯の下に単節縄文を施文, その上に結節文を施文	SI52覆土中	縄文時代中期後葉
TP126	縄文土器	深鉢	－	(5.5)	－	雲母・長石・小礫	明黄褐	普通	なぞりを加えた隆帯上に爪形文を施文し, 上位に単節縄文を施文	SI59覆土中	縄文時代後期前葉, PL63
TP127	縄文土器	深鉢	－	(4.1)	－	雲母・長石・石英・小礫	明褐	普通	隆帯によって文様帯を区画し, 区画内に単節縄文を充填	SI61覆土中	縄文時代中期後葉
TP128	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	－	長石	橙	普通	単節縄文を施文	SI61覆土中	縄文時代後期前葉, PL63
TP129	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	－	雲母・長石・石英	赤褐	普通	横状突起を有し, 結節沈線文を施文	SK66覆土中	縄文時代中期前葉, PL63
TP130	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	－	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	沈線によって文様帯を区画し, 区画内に列点文を施文	SI72覆土下層	縄文時代後期前葉, PL63

番号	器種		長さ	径	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP28	土製	玉	1.8	2.1	0.5	7.3	土製	外面ナデ, 一方向から穿孔, 断面ほぼ円形	SD1覆土中	PL59
DP29	土製	玉	1.1	1.1	－	1.3	土製	外面ナデ, 断面円形	包含層	PL59

番号	器種		長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP24	泥面子		(2.4)	(3.6)	(1.7)	(7.0)	土製	人物像の下位と思われる浮き彫り	SK33覆土中	
DP30	輪羽口		(1.8)	[7.2]	[5.4]	(42.6)	土製	外面ナデ, 一方向から穿孔, 一方の先端部残存	表土中	PL58
Q8	剥片		7.7	5.5	1.1	(7.0)	安山岩	背面に多方向の剥離面を有する縦長剥片, 左縁辺に自然面を残す	S124覆土中	PL64
Q26	礫	石	8.0	(14.3)	4.0	(420.0)	安山岩	表裏敲打面	表土中	
Q37	粗先形尖頭器		3.7	1.4	0.5	2.9	安山岩	先端部欠損, 両面押圧剥離	A411確認面	PL64
Q38	磨製石斧		(2.1)	4.9	2.2	(145.0)	安山岩	定形式, 刃部欠損, 全面研磨	C4d6確認面	PL64
Q40	敲石		13.0	7.3	5.5	749.2	安山岩	上下面に敲打痕, 下面には敲打による剥離有	表土中	
Q44	紡錘車		(7.9)	5.0	4.3	(182.8)	凝灰岩	祖面4面, 溝状の紡錘1条有	表土中	PL59
Q45	剥片		5.3	3.3	1.0	10.8	硬質頁岩	横剥離面打面を有する縦長剥片で, 左縁辺の縁端部に刃こぼれ状の剥離	E4b5確認面	PL64
Q46	剥片		(4.2)	3.1	0.8	(10.2)	珪質頁岩	単剥離面打面を有する縦長剥片で, 左縁辺に刃こぼれ状の剥離, 縁端部欠損	A315確認面	PL64

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q50	剥片	3.2	2.5	0.8	4.0	硬質頁岩	基端部欠損、縁端部に尖頭状の二次加工痕を有する	E4d3確認面	PL64
Q52	剥片	4.0	2.3	0.5	3.1	硬質頁岩	縁端部欠損、左縁辺に刃こぼれ状の剥離を有する縦長剥片	表土中	PL64
Q55	剥片	6.9	2.0	1.0	8.3	硬質頁岩	両端部欠損、右縁辺に微細剥離痕を有する縦長剥片、背面に自然面を有する	C4e4確認面	
Q61	スクレイパー	3.7	2.1	1.4	5.7	黒曜石	縦長剥片を素材に腹面から縁辺に急角度の調整を施す	E3d9確認面	PL64
Q62	ナイフ	4.0	1.9	1.2	6.6	黒曜石	厚みのある剥片を素材に基端部・右縁辺に急角度のブランティングを施す	E4d3確認面	PL64
Q63	剥片	3.8	2.6	0.9	6.9	黒曜石	背面に打面の周辺調整を残す打面再生剥片	E3d9確認面	PL64
Q65	エンドスクレイパー	2.8	2.2	0.8	3.4	黒曜石	腹面から縁端部に急角度の調整を施す	D316確認面	LP64
Q69	剥片	1.7	1.3	0.3	0.6	黒曜石	腹面から両縁辺に微細な二次加工を施した剥片、縁端部欠損	S123覆土中	PL64
Q72	剥片	6.6	6.1	1.7	38.2	頁岩	複剥離打面を有する縦長剥片で、両縁辺の縁端部に二次加工痕を有する	客土中	PL64
Q73	剥片	4.7	4.3	0.8	9.6	硬質頁岩	両縁辺に刃こぼれ状の剥離を有する縦長剥片	E3c1確認面	PL64
Q74	ナイフ	4.3	2.6	1.1	9.3	硬質頁岩	横長剥片を素材とし、基端部に腹・背両面から調整を施し、両縁辺に微細剥離痕を有する	A316確認面	PL64
Q79	鏃	2.3	1.4	0.5	1.1	頁岩	有茎鏃、左右対称、両面押圧剥離	D3f3確認面	PL64
Q80	鏃	2.0	1.6	0.4	0.8	チャート	無茎鏃、左右対称、両面押圧剥離	C4c5確認面	PL64
Q81	ミニチュア規	3.6	1.1	1.8	10.6	凝灰岩	外面・陸部研磨、溝部削り出し	表土中	
Q82	切子玉	(2.6)	1.7	(1.6)	(4.7)	水晶	断面六角形で、若干斜めに穿孔されている	S14覆土中	PL64
Q83	鏃	2.5	2.0	0.3	(0.9)	チャート	無茎鏃、左右対称、両面押圧剥離、基部一部欠損	S128覆土中	PL64
Q88	エンドスクレイパー	2.3	2.3	0.7	4.0	黒曜石	腹面から縁端部に急角度の調整を加え刃部を作出する	SD1覆土中	PL64
Q89	ニンドスクレイパー	(1.5)	2.9	0.8	(3.4)	黒曜石	基端部欠損、腹面から縁端部に急角度の調整を加え刃部を作出する	SD4覆土中	PL64
Q97	礫石	8.1	6.5	3.8	276.5	安山岩	表裏敲打面	S143覆土中	
M107	火打金	(2.1)	(10.3)	0.6	(24.9)	鉄	下端湾曲、断面台形	SK2覆土中層	
M108	雄管	(3.0)	1.0	(1.1)	(3.3)	銅	雁首、先端欠損	SK4確認面	
M125	釘	(10.7)	0.8	0.5	(12.2)	鉄	断面方形の棒状	表土中	
M126	釘	(5.3)	0.4	0.5	(2.5)	鉄	断面長方形の棒状	表土中	
M127	釘	(4.3)	0.4	0.4	(2.7)	鉄	断面方形の棒状	表土中	
M128	釘	(3.8)	0.6	0.5	(4.3)	鉄	断面長方形の棒状、一端が尖る	表土中	
M138	煙管	6.2	1.1	1.1	10.1	銅	吸い口、筒状の部品が入子になっている	D4a7確認面	
M140	鎌	(9.3)	4.3	0.6	(93.2)	鉄	切先欠損、刃部湾曲、基部は全体を折り曲げる	表土中	
M143	鎌	(3.1)	3.2	0.3	(9.2)	鉄	刃先・基部欠損、刃部湾曲	表土中	
M145	不明	(5.8)	1.4	0.3	(10.5)	鉄	断面長方形の板状	表土中	
M146	不明	(3.9)	1.7	0.4	(7.8)	鉄	断面長方形の板状	表土中	
T7	平瓦	(11.2)	(11.9)	1.9	(221.4)	土製	凸面格子目の叩き、凹面ヘラ削り、布目痕	SK-94覆土中	PL63
T8	平瓦	(4.6)	(8.7)	1.9	(62.0)	土製	凹面10条1単位の擦り目	表土中	

番号	銭名	径	孔	厚	重量	鋳造年	材質	特徴	出土位置	備考
M131	文久永寶	2.7	0.7	0.1	4.0	文久三年 (1863)	銅	円体方孔，背11波の波文	E4c1確認面	
M132	元祐通寶	2.4	0.7	0.1	2.3	元祐元年 (1093)	銅	北宋銭，行書，円体方孔，無背	客土中	PL62
M133	皇宋通寶	2.4	0.7	0.1	2.7	寶元元年 (1038)	銅	北宋銭，真書，円体方孔，無背	E3c0確認面	PL62
M134	不明	[2.4]	[0.7]	0.1	(1.5)	不明	銅	円体方孔，無背，欠損により残存部分の「永通」のみ確認，恐永通寶か	A411確認面	

第4節　ま　と　め

1　はじめに

当遺跡の調査は，平成13年4月から12月にかけて実施され，竪穴住居跡86軒，掘立柱建物跡19棟，土坑239基，溝跡8条，大形竪穴状遺構2基，地下式壙8基，方形竪穴遺構6基などが確認されている。これまでの調査結果から，当遺跡は古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての集落跡を中心とする複合遺跡であることが判明している。

各時代毎に見ると，旧石器時代のエンドスクレイパーやナイフをはじめとする石器類が40点ほど出土しているが，耕作による攪乱等によって出土したものがほとんどである。縄文時代の遺構は確認されていないが，中期前葉から後期前葉にかけての土器片が11片確認されている。弥生時代の遺構と遺物は，確認されていない。古墳時代後期の遺構として，15軒の竪穴住居跡が確認されている。奈良・平安時代は当遺跡の主たる時期であり，竪穴住居跡81軒，鍛冶工房跡1軒，掘立柱建物跡17棟，土坑15基，溝跡3条，遺物包含層1か所，大形竪穴状遺構2基，不明遺構1か所が確認されている。中世は，掘立柱建物跡2棟，地下式壙8基，方形竪穴遺構6基，土坑21基，溝1条が確認されている。近世以降の遺構は，溝4条と土坑203基が確認されている。

ここでは，集落の変遷を周辺遺跡との関係でとらえた上で，主たる時期である奈良・平安時代に焦点をあてていくつかの考察を加えてまとめとしたい。

2　集落の変遷と周辺遺跡との関係

鳥名八幡前遺跡は，東谷田川右岸の標高約22mの台地上に位置している。東谷田川右岸には，当遺跡の北方200mに古代河内郡嶋名郷の拠点的集落である鳥名熊の田遺跡が位置し，南東方向500mには方形館跡が確認された鳥名前野東遺跡が位置している。当遺跡の集落の変遷について，これら2遺跡との比較を通して考えてみたい。

当遺跡は，6世紀後葉の住居跡より以前の住居跡は確認されていないため，6世紀後葉に集落の起源を求めることができる。住居跡は8軒で，いずれも主軸方向を北西にもち，一辺9mを超える大形住居である第55号住居跡と第11号住居跡を除いた6軒が，主軸と同方向に整列して確認されている。7世紀前半になると，東谷田川に面した台地縁辺に1辺8m前後の大形住居である第16・40号住居跡が南北に連なるように営まれるが，住居跡は4軒と衰退の傾向を示している。7世紀後半には集落が一時途絶え，7世紀末葉になり3軒の住居跡が確認される。いずれも主軸方向を北にもつ小形化した住居跡である。

8世紀前葉は当遺跡の画期にあたり，東谷田川に面する台地の縁辺を中心に30軒，8世紀代とした住居跡を含めれば37軒の住居跡が出現している。住居跡37軒は，当遺跡で確認された住居跡の3分の1にあたる。この住居跡群に伴って，遺跡の東端に第1号鍛冶工房跡も確認されている。また，当遺跡の西端には1辺が6mを超す大形住居である第94・95号住居跡が南北に連なるように確認されている。第94号住居跡は第12号掘立柱建物跡を伴うと考えられ，当期の中心的な住居であったと考えられる。遺跡中央部の南端には氷室状遺構と考えられる第1号大形竪穴状遺構が確認され，当期に有力な人物が存在していたことを裏付けている。

8世紀中葉になると住居跡数は15軒と半減し，遺跡北端の2軒と南東部の6軒，西部の7軒の三つのグループに分けることができる。西部には，第13A・B号掘立柱建物跡を伴う第80号住居跡や第14号掘立柱建物跡を伴う第92号住居跡など，1辺6mほどの大形住居の集中が見られ，当遺跡の中心的な役割をはたす地区になっていたものと考えられる。特に第80号住居跡は，土師器片1900点弱，須恵器片800点ほどが出土した当期の中心

的住居であると考えられる。氷室状遺構と考えられる第2号大形竪穴状遺構は，第68号住居跡出土の破片と接合する水瓶片が出土していることから当期の遺構の可能性があり，前業に引き続き有力な人物の存在を裏付けている。前述の水瓶は狭投産の灰釉陶器であり，仏教の受透の可能性も考えることができる。

8世紀後業の住居跡は10軒に減り，遺跡中央部に集中して確認されている。遺跡西部の第80号住居跡が中期から継続して営まれていたと考えられるが，住居跡3軒だけが確認されている8世紀末業から9世紀前業にかけて，当遺跡は2度目の衰退期を迎えることになる。

9世紀中業は10軒の住居跡が確認されており，遺跡北端に位置している第12号住居跡を除けば，遺跡東端の東谷田川へ向かう傾斜地の3軒と遺跡中央部の6軒の2グループに分けることができる。遺跡東端のグループの第45号住居跡からは鉄製の紡錘車が，第41号住居跡からは鉄滓が，第67号住居跡からは灰釉陶器の長頸瓶と高台付椀が出土しており，手工業との関わりが伺える。遺跡中央部のグループの第77号住居跡は一辺5mほどの大形住居で，灰釉陶器長頸瓶の破片3点を含む多くの遺物が出土しており，当期の中心的住居であった可能性が考えられる。第77号住居跡の北西方向に位置する第81号住居跡からは，「八万」「乗ヵ」「聞」と墨書された土師器坏が出土している。

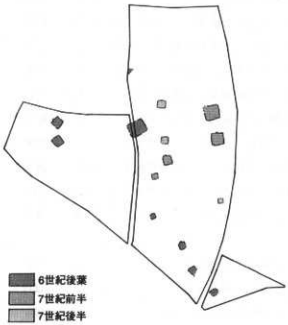
9世紀後業は7軒の住居跡が確認されており，遺跡の東部と西部にまとまりがみられるものの，住居跡が遺跡内に拡散している印象を受ける。東部の第15号住居跡は，鍛冶炉は確認できなかったが鞴羽口や鍛造剥片が出土しており，鍛冶関連遺構と考えられる。第20号住居跡からは灰釉陶器の長頸瓶や高台付椀，凸面格子目叩きの瓦が出土している。遺跡南部の第35号住居跡の竈2からは，土師器甕，須恵器坏・瓶が重ねられて出土しており，竈の廃絶にあたって何らかの儀式が行われた可能性が考えられる。遺跡西部の第86号住居跡からは「田」と墨書された土師器高台付椀や灰釉陶器，須恵器大甕が出土し，第83号住居跡からも灰釉陶器長頸瓶の破片が3個体分出土している。第97号住居跡の竈2からは，置き竈と鍔掛けがセットで出土している。

10世紀以降の奈良・平安時代の遺構は確認されておらず，次に当遺跡に遺構が営まれるのは中世の鎌倉時代後期である。遺跡南部を中心に，地下式壙8基，方形竪穴遺構6基，墓壙の可能性のある土壙21基が確認されている。地下式壙・方形竪穴遺構・土壙は遺跡南部中央に集中しており，この地域が墓域として区画されていたことが考えられる。東谷田川に面した台地縁辺には，断面が箱薬研状の第1号溝が確認されている。出土遺物から遺跡南部に営まれた墓域と同時期と考えられるが，性格については不明である。しかし，中世の遺構は第1号溝の北側には確認されず，当期の遺跡北端が第1号溝の北端であった可能性も考えられる。

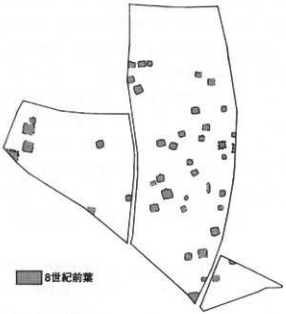
近世には，遺跡東部を中心に円形の規格性の高い土坑が多数確認されており，再度墓域になったと考えられる。また，遺跡南部の北端に集中して確認された長方形の規格性の高い土坑群は，近世以降の耕作に伴う遺構と考えられる。

以上，鳥名八幡前遺跡の変遷を概観してきた。次に，古墳時代後期から奈良・平安時代ついては当遺跡の北方に位置する鳥名熊の山遺跡，中世については当遺跡の南東方向に位置する鳥名前野東遺跡との比較を通して考えてみたい。

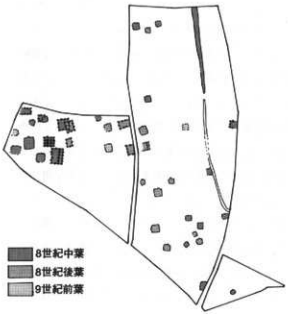
6世紀から9世紀にかけての鳥名熊の山遺跡の状況を，南西部の集団に注目して概観してみたい[1]。鳥名熊の山遺跡は4世紀に起源をもち，6世紀後半に大規模な開拓によって台地全体に集落が拡大した。7世紀前業には，遺跡内に四つの有力な集団が形成され，南西部の集団では鍛冶関連の手工業が開始されている。しかし，7世紀後半には衰退期を迎えている。8世紀前業に南西部を除く三つの集団が復興を遂げたのに対して，南西部の復興は8世紀中業の掘立柱建物跡群の成立まで待たなくてはならない。これ以後，南西部の集団は掘立柱建物跡群を中心に9世紀後業まで繁栄を続けて行くが，10世紀になると衰退している。鳥名熊の山遺跡で唯一



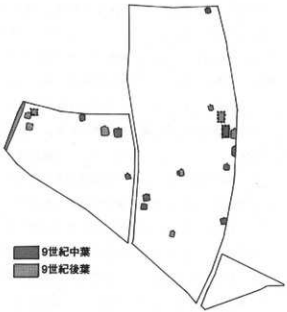
古墳時代　6世紀後葉～7世紀後半



奈良・平安時代（8世紀前葉）



奈良・平安時代（8世紀中葉～9世紀前葉）



奈良・平安時代（9世紀中葉～9世紀後葉）

第292図　烏名八幡前遺跡集落変遷図

の鍛冶工房跡は，9世紀前葉の時期で南西部の集団の北方から検出されている。

南西部の集団に着目して烏名熊の山遺跡を概観した結果，いくつか当遺跡の状況と符合する点が確認できる。第1に，6世紀後葉に大規模な開拓によって烏名熊の山の集落は台地上に拡大している。第2に，7世紀代に北西に向いていた住居の主軸は，8世紀から真北を向くようになる。第3に，7世紀に成立した鍛冶に関わる南西部の集団は，他の集団が8世紀前葉に復興しているのに対して8世紀中葉になって復興している。第4に，南西部の集団は10世紀に入って衰退している。これら4点の事実から，当遺跡について考えられることを下記に記してみる。当遺跡の集落は，烏名熊の山の集落と同様に6世紀後葉に大規模な開拓が行われたことに起源をもっている可能性が考えられる。両集落ともに住居の主軸方向が北西から北に変更されるのが8世紀であることから，当集落は烏名熊の山の集落と密接な関係をもって維持されていた可能性が考えられる。鍛冶集団である烏名熊の山の集落の南西部の集団が8世紀中葉に復興する理由として，8世紀前葉に爆発的に集落が拡大した当集落に拠点を移して鍛冶生産をしていた可能性が考えられる。烏名熊の山の集落の南西部の集団と関係が深いと考えられる当集落は，南西部の集団の衰退とともに9世紀末をもって終息迎えた可能性が考えられる。

中世の方形館跡が検出されている烏名前野東遺跡[2]と当遺跡の中世の状況を比較してみると，いくつかの共通点を見い出すことができる。第1に，両遺跡から出土している上師質土器皿・小皿は形状などからほぼ同時期のものと推定できる。第2に，両遺跡に断面が箱薬研状の溝が確認できる。第3に，方形館跡は13世紀後半から14世紀前葉にかけての短い時期の遺構であり，当遺跡の中世の遺構群と時期が同一と考えられる。第4に，龍泉窯系の青磁が両遺跡から出土している。この4点の事実から，当遺跡の中世の遺構は烏名前野東遺跡の方形館に伴う墓域だった可能性が考えられる。

3　鍛冶関連遺構

当遺跡からは，鍛冶炉を伴う第1号鍛冶工房跡が確認されている。本跡からは，鉄滓（椀状，剥片状，粒状）が大量に出土し，羽口も2点出土している。時期を同じくする第74号住居跡からも羽口片が出土し，当遺跡では8世紀前葉から鍛冶に携わる人々が存在したと考えられる。8世紀中葉から後葉に位置付けた第80号住居跡からも鉄滓（椀状）と金床石が確認されている。9世紀後半に位置付けた第15号住居跡から鉄滓（椀状，剥片状，粒状）と羽口片が，第20号住居跡と第41号住居跡から鉄滓（椀状）が確認されている。金床石が確認された第80号住居跡や羽口と鉄滓が確認された第15号住居跡は，鍛冶炉こそ確認できなかったものの鍛冶関連遺構としてとらえることができる。当遺跡は8世紀前葉に鍛冶工房が出現し，集落の終息を迎える9世紀後葉まで鍛冶生産が続けられた可能性が考えられる。烏名熊の山の集落の鍛冶関連集団との密接な関係を考えれば，当集落において連綿と鍛冶生産が行われてきたことは想像に難くない。

第1号鍛冶工房跡は，鍛冶炉の南に羽口を設置したと思われる長方形のピットが存在し，鍛冶炉と羽口を結ぶ羽口を設置したと思われる溝も確認されている。金属考古学的な調査結果からも，本跡では精錬作業が行われていたと推定できる。しかし，本跡からは加熱・鍛打を行うために必要な金挟みや台石が確認されておらず，鉄滓は側表面に固着する鉄滓をはつりとる際に生じたのか，造滓材として使用されたのかを吟味しなくてはならず，今後の類例の蓄積が待たれるところである。

第15号住居跡や第80号住居跡から確認された鉄滓の観察から，鉄滓は第1号鍛冶工房跡と同様の工程のもとに生成された可能性が非常に高い。つまり，2世紀にわたって同様の方法で精錬作業が行われた可能性があるということである。2世紀にわたって同様の方法を用いて精錬作業が行われたかどうかは，今後の調査結果の

蓄積をもって検討する必要があると思われる。

当遺跡と周辺には，銑鉄を生産する遺跡は現在確認されていない。金属考古学的な調査結果から，第1号鍛冶工房では鉄鉄を原料鉄としていたと考えられる。この銑鉄には硫化銀が含まれていたことが明らかで，他地域からの流通があったと考えられる。銑鉄の流通はもちろん，硫化銀を含む銑鉄の生産地や流通経路については，今後の類例の蓄積をもって検討を加えていきたい。

当遺跡で生産された銅は刀子・鎌・釘等に加工され，当遺跡と隣接の深い島名熊の山の集落で消費されたと考えられる。生産された銅や加工された製品が周辺の集落に供給されたかについては，周辺遺跡での金属考古学的な調査結果の蓄積によって明らかになるものと考える。

第1号鍛冶工房跡を含めた当遺跡の鍛冶関連遺構では，精錬作業によって銅を生産し，刀子などに加工していた可能性が非常に高いことが明らかになった。しかし，原料鉄である銑鉄の流通や製品の消費地など解明しなくてはならない点が多いことも明らかになった。今後の調査成果に期待しつつ，鳴名郷はもとより古代河内郡にも視野を広げて検討する必要性を感じている[7]。

4　文字資料

当遺跡からは，36点の文字資料（箆書4，刻書1，墨書30，朱書1）が出土している。8世紀代では前葉5点，中葉2点，後葉4点の合計11点の文字資料が確認されている。9世紀代では中葉15点，後葉10点の合計25点の文字資料が確認されており，全体の70%を占めている。9世紀後半に墨書土器が大量に出土する傾向は，茨城県内はもとより[8]，全国的にも共通して認められることである[9]。9世紀は複数点の墨書土器を出土した住居跡が多く，9世紀後葉出土の墨書土器は3軒の住居跡から集中して出土している。

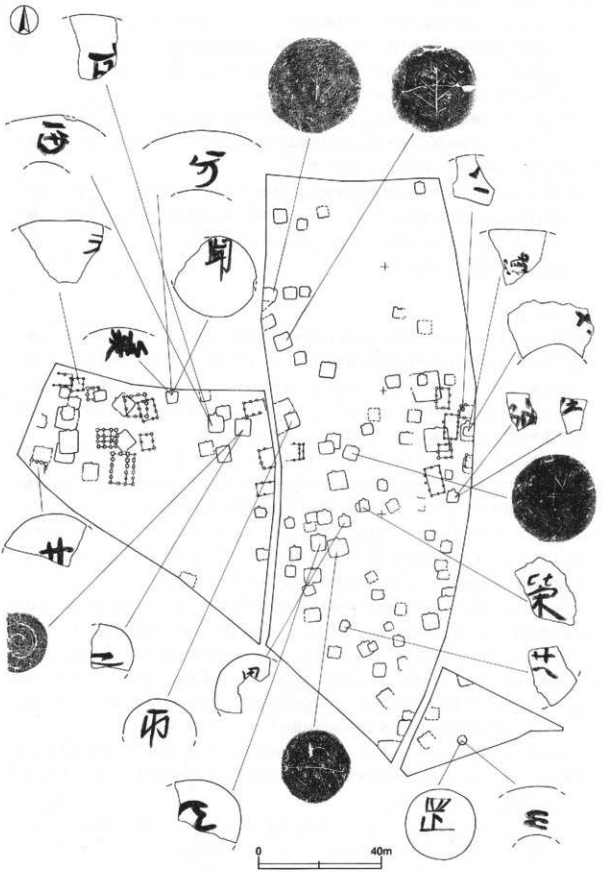
8世紀前葉の文字資料は，箆書3点，刻書1点，朱書1点である。箆書3点の内2点は，古墳時代の影響が残る土師器坏（131・140）の底部中央に業脈状の記号が記されており，もう1点の箆書（245）と同様に製作者の識別記号の可能性が考えられる。刻書1点も古墳時代の影響の残る土師器坏（351）であるが，刻書された文字は「N」と「十」を二つ重ねたような字体で，高島英之氏によれば「N」は「九字」の省略の可能性が考えられる文字である[10]。朱書は須恵器坏（752）の底部に確認されたが，土器の形状から重複している8世紀中葉の住居跡に帰属する可能性も考えられ，8世紀中葉の文字資料とともに記載したい。

8世紀中葉の文字資料は，第2号大形竪穴状遺構から出土した墨書2点である。1点は須恵器坏（734）の底部に岡の異字体である「罡」と墨書されている。もう一点は須恵器坏（736）の体部外面に墨書された「E」状の文字である。752の須恵器坏底部に朱書された「中」と「E」状に墨書された文字は，千葉県柏市花前遺跡出土の墨書に類例がある[11]。花前遺跡は，8世紀から10世紀にかけての製鉄遺跡であり，「◎」「井」などの魔除け記号が大量に出土した遺跡である[12]。朱書「中」は前期の「N」と同様に「九字」の省略の可能性が考えられ，「E」状の文字は花前遺跡の類例から魔除け記号の可能性を考えることができる。

8世紀後葉の文字資料は，墨書4点である。第56号住居跡から出土した須恵器坏（379）の底部外面には「□」と墨書されている。「□」は，群馬県芳賀東部団地遺跡から出土している墨書と酷似しており，道教の呪符に基づいた文字である可能性も考えられる[13]。

9世紀出土の文字資料は墨書24点と箆書1点であり，墨書された土器は，土師器・須恵器各12点である。器種は，土師器に高台付皿・椀が各1点ある以外はすべて坏である。8世紀代にみられなかった特徴として，横位に記された文字・複数文字記載の出現と体部内面への墨書の3点を指摘することができる。

9世紀中葉の文字資料で注目できるのは，第81号住居跡から出土した土師器坏（593）の体部外面に墨書され



第293図　島名八幡前遺跡文字資料出土位置図

た「八万」である。この墨書土器は，住居跡北東コーナーの床面にもう一点の土師器坏と逆位で重ねられた状態で出土し，何らかの人為的行為のもとに遺棄されたことが考えられる。同住居跡からは土師器坏（595）の体部外面に横位で「乗ヵ」と墨書された破片や土師器坏（596）の底部外面に「閑」と墨書された破片も出土している。第49号住居跡からは，底部内面に「栄ヵ」と墨書された須恵器坏（345）も確認されている。

9世紀後葉の文字資料の特徴は，横位に記された文字の増加である。第20号住居跡から出土した土師器坏（188），第86号住居跡から出土した土師器高台付椀（625）の体部外面には横位に文字が墨書されている。188

表17　島名八幡前遺跡出土文字資料一覧表

遺物No	種別	器種	墨・朱	墨書箇所	内外面	釈文	方向	遺構	時代	備考
131	土師器	坏	墨書	底部	外面	集風状	正位	第6号住居跡	8世紀前葉	識別記号
140	土師器	坏	墨書	底部	外面	集風状	正位	第8号住居跡	8世紀前葉	識別記号
245	須恵器	坏	墨書	底部	外面	一	正位	第28号住居跡	8世紀前葉	識別記号
351	土師器	坏	墨書	底部	外面	N++	正位	第52号住居跡	8世紀前葉	九字の略ヵ
752	須恵器	坏	朱書	底部	外面	卅	正位	第12号掘立柱建物跡	8世紀前葉	九字の略ヵ
734	須恵器	坏	墨書	体部	外面	正	正位	第2号大形竪穴状遺構	8世紀中葉ヵ	両の崩字体
736	須恵器	坏	墨書	体部	外面	ε	正位	第2号大形竪穴状遺構	8世紀中葉ヵ	魔除け記号ヵ
203	須恵器	坏	墨書	底部	外面	田ヵ	正位	第21号住居跡	8世紀後葉	
237	須恵器	坏	墨書	底部	外面	口	正位	第27号住居跡	8世紀後葉	
239	須恵器	高台付坏	墨書	底部	外面	□	正位	第27号住居跡	8世紀後葉	
379	須恵器	坏	墨書	底部	外面	田	正位	第56号住居跡	8世紀後葉	
293	土師器	坏	墨書	底部	外面	口	正位	第41号住居跡	9世紀中葉	
295	土師器	坏	墨書	体部	外面	□	正位	第41号住居跡	9世紀中葉	
296	土師器	坏	墨書	底部	外面	□	正位	第41号住居跡	9世紀中葉	生ヵ
297	土師器	坏	墨書	体部	外面	口	正位	第41号住居跡	9世紀中葉	
435	土師器	高台付皿	墨書	底部	外面	子ヵ	正位	第77号住居跡	9世紀中葉	
449	須恵器	坏	墨書	底部	外面	一	正位	第77号住居跡	9世紀中葉	識別記号ヵ
467	須恵器	坏	墨書	体部	外面	匚	正位	第78号住居跡	9世紀中葉	
593	土師器	坏	墨書	体部	外面	八万	正位	第81号住居跡	9世紀中葉	
595	土師器	坏	墨書	体部	外面	乗ヵ	横位	第81号住居跡	9世紀中葉	
596	土師器	坏	墨書	底部	外面	閑	正位	第81号住居跡	9世紀中葉	
769	須恵器	坏	墨書	体部	内面	口	正位	第19号土坑	9世紀中葉	
775	須恵器	坏	墨書	体部	外面	□	正位	第23号土坑	9世紀中葉	
830	須恵器	坏	墨書	体部	外面	□	正位	第2号溝	9世紀中葉	
864	須恵器	坏	墨書	体部	外面	□	正位	第2号溝	9世紀中葉	
345	須恵器	坏	墨書	底部	内面	栄ヵ	正位	第49号住居跡	9世紀中～後葉	
188	土師器	坏	墨書	体部	外面	冂崎ヵ	横位	第20号住居跡	9世紀後葉	
189	土師器	坏	墨書	体部	外面	□	正位	第20号住居跡	9世紀後葉	
190	土師器	坏	墨書	体部	外面	□	正位	第20号住居跡	9世紀後葉	
194	須恵器	坏	墨書	体部	外面	□	横位	第20号住居跡	9世紀後葉	
277	須恵器	坏	墨書	底部	外面	共	正位	第35号住居跡	9世紀後葉	
278	須恵器	坏	墨書	底部	内面	□	正位	第35号住居跡	9世紀後葉	
625	土師器	高台付椀	墨書	体部	外面	田	横位	第86号住居跡	9世紀後葉	
634	須恵器	坏	墨書	体部	外面	口	正位	第86号住居跡	9世紀後葉	
635	須恵器	坏	墨書	体部	外面	□	正位	第86号住居跡	9世紀後葉	
764	須恵器	坏	墨書	体部	外面	天ヵ	正位	第15号掘立柱建物跡	9世紀末葉	

の土師器坏に墨書された文字は２文字以上であり，２文字目は嶋名郷の「嶋」である可能性が考えられる。第35号住居跡からも２点の墨書土器が出土しているが，当跡は竈２の廃絶にあたって儀式が行われた可能性のある住居跡であり，墨書土器も儀式に関与する遺物の可能性が考えられる。

各時代の文字資料について概観してきたが，当遺跡の文字資料について考えてみたい。８世紀前葉は篦書や刻書が確認されたのみで墨書の確認は８世紀中葉以降になることから，当遺跡に墨書が出現するのは８世紀中葉以降であると考えられる。また，当遺跡への文字資料の浸透は，道教の呪符などを用いた魔除けの記号や文字の導入が契機になった可能性が考えられる。前述の千葉県柏市花前遺跡が製鈔遺跡であったように，８世紀の鍛冶工房跡が存在する鍛冶関連遺跡の当遺跡に，道教的なまじないが浸透してきた可能性が考えられる。９世紀の文字資料の様相は，一般的な墨書土器と同様に「八方」「栄ヵ」等のように吉祥句的な文字に変化する。しかし，横位に記された文字や内面への墨書の出現は，依然としてまじない的な要素をもった墨書土器の用途を想定することが可能で，今後さらに検討を重ねる必要があると考える。また，９世紀の墨書土器がある特定の住居跡からのみ出土することからも，墨書土器を保持する人々が限定されていた可能性が考えられる。墨書土器をはじめとする文字資料については不明な点が多々あり，周辺遺跡からの調査成果の蓄積を加味して当遺跡の文字資料の検討を深めていく必要性がある。

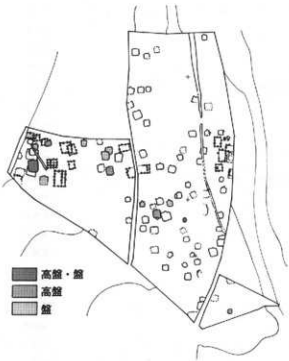
5　出土遺物からみた島名八幡前遺跡

当遺跡が位置する古代河内郡には，郡衙関連集落である東岡中原遺跡，嶋名郷の拠点的集落である島名熊の山遺跡，一般集落である柴崎遺跡が存在している。これら３遺跡の出土遺物と当遺跡出土の遺物を比較検討することによって，当遺跡についてさらに検討を加えたいと思う。

供膳具の中でも，須恵器高盤や盤類，円面硯は，集落の性格が官的なものに近づくほど出土率が高まる傾向がみられる[8]。東岡中原遺跡では盤14%，高盤６%，円面硯７点，島名熊の山遺跡では盤10%，高盤３%，円面硯６点，柴崎遺跡では盤６%，高盤1.7%，円面硯２点という結果が得られた。当遺跡では盤8.8%,高盤3.1%，円面硯１点の結果が得られ，拠点的集落である島名熊の山遺跡とほぼ同様の数値であることが確認できた。当遺跡における高盤・盤類の割合が島名熊の山遺跡とほぼ同様であることは，２遺跡の関係の深さを立証できるデータと考えられる。

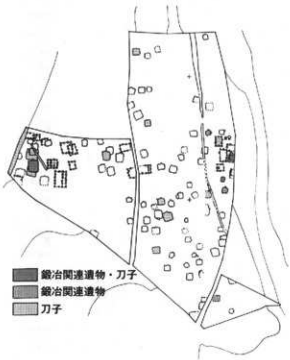
施釉陶器の出土は，東岡中原遺跡では灰釉陶器15.4%，緑釉陶器3.7%，島名熊の山遺跡では灰釉陶器1.9%，緑釉陶器0.07%，柴崎遺跡では灰釉陶器0.88%，緑釉陶器０%の結果が得られた。当遺跡では灰釉陶器3.03%，緑釉陶器０%の結果が得られ，緑釉陶器の出土はないものの灰釉陶器の出土割合で島名熊の山遺跡の1.5倍であることが確認できた。施釉陶器の出土時期は，８世紀に数点みられるが，全体の７割以上が９世紀後半のものである。この傾向は，茨城県内の施釉陶器の出土傾向と合致している[9]。当遺跡の施釉陶器は，折戸10号窯式から黒笹90号窯式まで長期間にわたる製品が出土していることも特徴の一つである。施釉陶器は，高盤・盤類同様に官的集落ではまとまった量を保有し，一般集落ではわずかな量しか保持できないという傾向がみられる。拠点的集落である島名熊の山遺跡は官的集落と一般集落の中間の数値を得たわけであるが，当遺跡がその1.5倍の数値を得た背景を考える必要がある。

生産関連遺物として，紡錘車，刀子，鎌・鋤先の出土数を住居跡数に対する割合で示してみると，東岡中原遺跡では手工業に関わる紡錘車や刀子の割合が高い。島名熊の山遺跡は，東岡中原遺跡と同様に紡錘車や刀子の割合が高いが，農業生産に関わる鎌や鋤先の割合も高くなっている。当遺跡は，刀子や紡錘車（軸と推定される鉄製品を含む）は東岡中原遺跡とほぼ同様の割合を示し，鎌・鋤先は鎌のみの出土で熊の山遺跡と同様の



官衛系遺物（高盤・盤）

施釉陶器・搬入土器（東海系）



鍛冶関連遺物・刀子

生産関連遺物（鎌・紡錘車）

第294図　島名八幡前遺跡奈良・平安時代主な遺物出土分布図

表18　島名八幡前遺跡　奈良・平安時代主な出土遺物一覧表

住居跡番号	須恵系遺物				鉄製品			須恵器器台	搬入土器	鉄滓関連遺物		その他の遺物	備考（時期）
	長盤	盤	円面硯	鹿角状	刀子	鉸具等	鎌			鉄滓	その他		
2					2	土製1							8世紀中葉
4						土製1							8・9世紀前葉
5				1								砥石1	8世紀前葉
6									須恵器長頸瓶				8世紀前葉
8							1	長頸瓶（K14）				不明鉄製品1	8・9世紀前葉
9					2								8世紀中葉
15										鉄滓（椀状・鍛冶・羽口）	羽口1		9世紀後葉
17												鉄鏃1	8世紀前葉
20					2	土製1		高台付椀（K14）	須恵器長頸瓶1	鉄滓（椀状）1		不明鉄製品1	9世紀後葉
21		高台1				鞆1							8世紀後葉
22					1								8世紀前葉
24						鞆1						砥石1	9世紀中葉
26		高台1											8世紀後葉
27	1											砥石1	8世紀後葉
28					1							鉄金具1	8・9世紀前葉
31												鏃1	8世紀前葉～中葉
35					1								9・10世紀後葉
41										鉄滓（椀状）2			9世紀中葉
45						1						不明鉄製品1	9世紀中葉
52									越前産長頸瓶1				8・9世紀前葉
53									須恵器高台付椀1				8世紀前葉
57					1								8・9世紀中葉
67								須恵器長頸瓶、高台付椀（K14）					8世紀中葉～後葉
68						鞆1		水瓶（O10）					8・9世紀中葉
74											羽口1		8世紀前葉
77							1	須恵器長頸瓶か、高台付椀（K14）				砥石1	9世紀中葉
80	2	高台1	1		6		2	須恵器長頸瓶2	赤彩須恵器1	鉄滓（椀状）1	金床石1	砥石1	8・9世紀中葉～後葉
81		高台1										不明鉄製品1	9世紀中葉
83						鞆1		長頸瓶（K14）か須恵器長頸瓶					9世紀後葉
84												フタリ鏃1	8・9世紀中葉～後葉
85		高台2				土製1						不明鉄製品1	8世紀後葉
86		高台1			3	土製1		長頸瓶（K14）か須恵器長頸瓶				須恵器天井・砥石各1	9世紀後葉
88	1												9世紀前葉
90	1												8・9世紀中葉
92		脚台1											8世紀中葉
93		高台1		1								砥石1	8世紀前葉～中葉
94					3	土製1	1	長頸瓶（K90）2				大刀金1	8・9世紀前葉
95					1								8・9世紀前葉
97					1							第3期・鋼鉄ナ・鉄鏃各1	9世紀後葉
第1号段状遺構					1	石製1				鉄滓（椀状・鍛冶・羽片）	羽口2	不明鉄製品2	8・9世紀前葉
SB1					1								9・10世紀後葉
SD11		高台1											8世紀中葉
SD6					1							丸1	9・10世紀後葉
第1号土坑	1	高台2											8世紀中葉
第2号土坑	1												9世紀中葉以降
SK21								須恵器長頸瓶3					9・10世紀中葉

割合を占めている。刀子の出土割合が非常に高いことが注目される。

以上，出土遺物の傾向を概観してきた。鑿類・高盤・牛蒡関連遺物の出土状況は，鳴名郷の拠点的集落である鳥名熊の山遺跡とほぼ同様の結果を示している。当遺跡の鑿類・高盤・牛蒡関連遺物の出土割合が鳥名熊の山遺跡と同様の数値を示したことは，鳥名熊の山遺跡との関係が深いことを立証するデータの一つと考えられる。東岡中原遺跡をしのぐ刀子の出土割合や鳥名熊の山遺跡をしのぐ灰釉陶器の出土割合については，筆者が浅学のために理由は不明である。しかし，当遺跡が鍛冶関連遺跡であることにその遠因を求めることができる可能性も考えられる。当遺跡は，灰釉陶器や刀子の問題はあるが，緑釉陶器を出土していない点や円面硯の確認数の少なさなどを加味して考えれば，拠点的集落に付随する遺跡である可能性が高いと考えられる。

6　遺跡西部の大形住居跡

8世紀代の当遺跡西部には1辺6mを超す大形住居が建て替えをしながら密集して存在している。大形住居は掘立柱建物跡を伴い，当期の中心地区らしい景観を備えていたものと考えられる。その中でも，第80号住居跡はひときわ住人の権勢の強さを感じさせる。

第80号住居跡は総柱式の第13A・B号掘立柱建物跡を伴う長軸7.3m，短軸6.3mの大形住居跡で，土師器片1900点弱，須恵器片800点ほどが出土している。注目される遺物として，須恵器高盤2点，須恵器鑿類6点，円面硯1点，刀子6点，鎌2点，灰釉陶器2点，東海産と思われる瓶1点，鉄滓・金床石各1点があげられる。宮的縁和の伺える須恵器高盤・盤類の集中と円面硯の出土は権力の大きさをあらわすと思われ，鍛冶関連遺物や鉄製品の集中からは当遺跡の基幹産業である鍛冶生産への影響の大きさをあらわしていると考えられる。また，灰釉陶器や東海産の搬入土器の存在は物資流通の恩恵を受けることが可能であったと考えられる。

この遺跡西部に代々居住する人々は当集落の中心人物であり，第80号住居跡の時期には鳥名熊の山の集落の有力者と比肩するだけの権勢を持ち合わせていた可能性が考えられる。

7　鳥名八幡前遺跡の性格

いくつかの側面から鳥名八幡前遺跡の性格に若干の考察を行ってきたが，少しずつ当遺跡の性格が見えてきたように思う。当集落は，6世紀後半に行われた台地上の開拓に端を発して成立し，鳥名熊の山の集落の南西部に存在した鍛冶関連集団の移住によって8世紀からの繁栄を生み出したと考えられる。当集落の繁栄は鳥名熊の山の集落抜きには考えられず，官的性格の遺物や生産関連遺物の出土状況から考えても鳥名熊の山の集落の機能を補完する重要な集落と位置付けられると考える。第80号住居の住人やその一族が鳥名熊の山の集落の有力者層とどのような関係にあったかも明らかにしていきたい点である。鳥名熊の山遺跡から出土している文字資料が集団の帰属や集落内の施設等に関わるものであるのに対して，当遺跡の文字資料がまじない的な色合いを強くしているのは特徴的である。これは当遺跡が鍛冶関連遺跡であることに遠因が求められるかもしれないが，今後の検討課題といえる。また，灰釉陶器の出土割合の高さや鍛冶工房への原料鉄調達，製品の消費地などの点から，鳥名熊の山の集落の介在も含めた物資の流通の問題も解決されてはいない。浅学のため解決の糸口も見い出せないまま筆を置くことは甚だ残念であるが，今後の調査成果を含めた古代鳴名郷の様相の解明に期待しつつ，今後も検討を続けていきたいと考える。

註

1）稲田　義弘，「熊の山遺跡」（『茨城県教育財団文化財調査報告書』第190集）　2002年3月

2）寺門　千勝　「島名前野東遺跡」（I茨城県教育財団文化財調査報告書』第191集）　2002年３月

3）岩手県立博物館赤沼英男氏のご教示による

4）奈良・平安時代研究班　「茨城県域における文字資料集成１～３」『研究ノート』９～11号 茨城県教育財団 2000～2002年

5）高島　英之　『古代出土文字資料の研究』　東京堂出版　2000年９月

6）千葉県文化財センター　『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』　1985年３月

7）平川　南　『墨書土器の研究』　吉川弘文館　2000年11月

8）白石　正子　「常陸国河内郡の官衙と集落」『板東の古代官衙と人々の交流』埼玉考古学会　2002年11月

9）奈良・平安時代研究班　「茨城県域における施釉陶器の検討（１）～（５）」『研究ノート』４～８号 茨城県教育財団 1995～1999年

付　　章

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

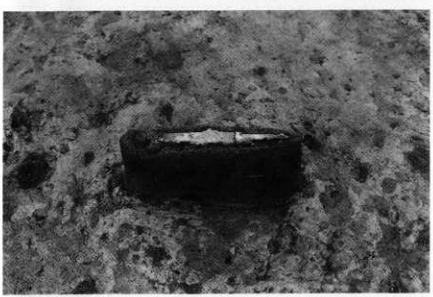
掲載不可

写　真　図　版

北部完掘状況

西部完掘状況

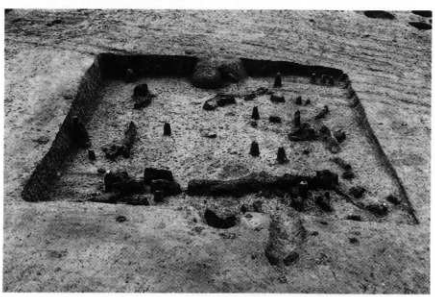
第10号住居跡完掘状況



第10号住居跡遺物出土状況

第16号住居跡完掘状況

第40号住居跡竈遺物出土状況



第40号住居跡遺物出土状況

第40号住居跡炭化材出土状況

第51号住居跡完掘状況

第54号住居跡完掘状況

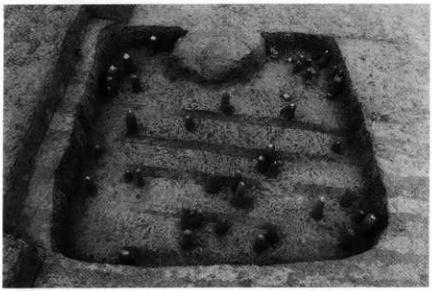
第55号住居跡遺物出土状況

第70号住居跡遺物出土状況

第70号住居跡遺物出土状況

第96号住居跡遺物出土状況

第1号住居跡竈完掘状況

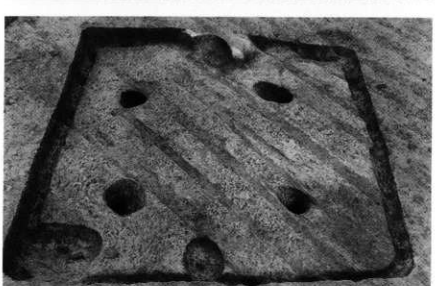


第2号住居跡遺物出土状況

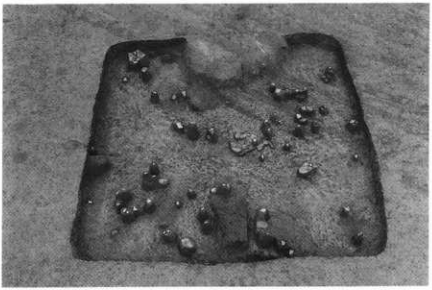
第3号住居跡完掘状況

第4号住居跡完掘状況

第5号住居跡完掘状況



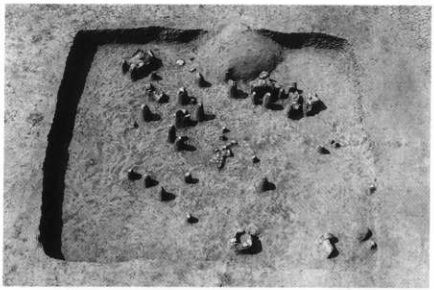
第8号住居跡完掘状況



第9号住居跡遺物出土状況

第9号住居跡P1遺物出土状況

第12号住居跡遺物出土状況



第13号住居跡遺物出土状況(1)

第13号住居跡遺物出土状況(2)

第15号住居跡完掘状況

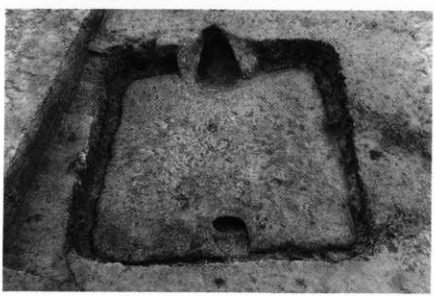
第20号住居跡完掘状況

第20号住居跡竈遺物出土状況

第21号住居跡遺物出土状況

第22号住居跡遺物出土状況(1)

第22号住居跡遺物出土状況(2)

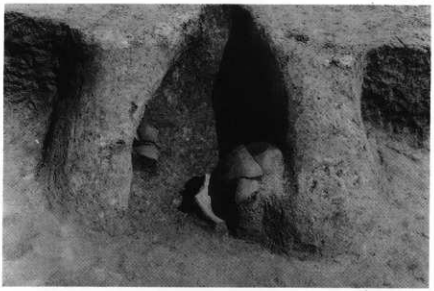


第26号住居跡完掘状況

第27号住居跡完掘状況

第28号住居跡完掘状況

第28号住居跡遺物出土状況



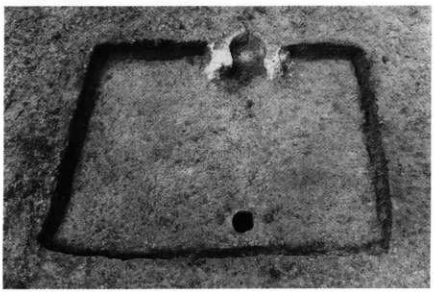
第31号住居跡竈遺物出土状況

第33号住居跡遺物出土状況

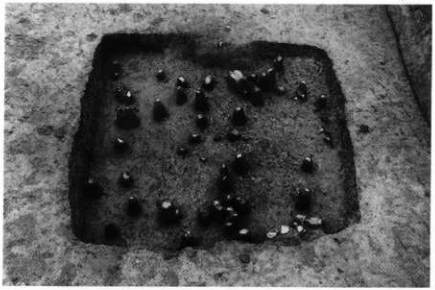
第34号住居跡遺物出土状況

第35号住居跡完掘状況

第35号住居跡竈2遺物出土状況

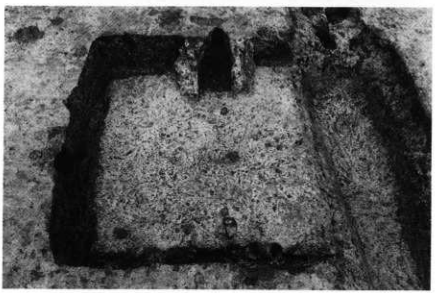


第39号住居跡完掘状況



第41号住居跡遺物出土状況

第43号住居跡竈遺物出土状況

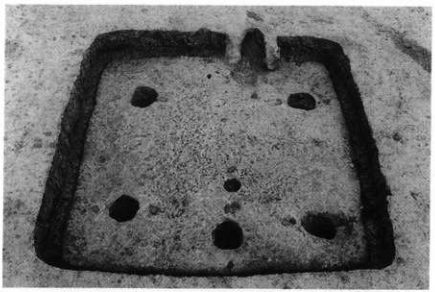


第46号住居跡完掘状況

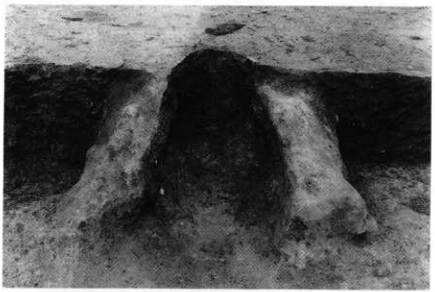
第48号住居跡竈遺物出土状況

第49号住居跡竈遺物出土状況

第49・50号住居跡完掘状況



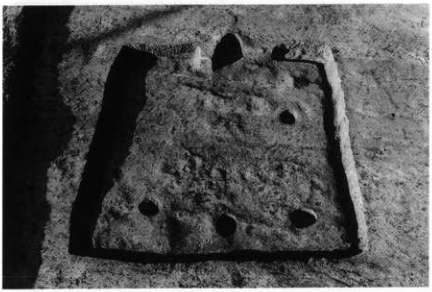
第52号住居跡完掘状況



第53号住居跡竈完掘状況

第56号住居跡完掘状況

第56号住居跡竈遺物出土状況



第58号住居跡完掘状況

第59号住居跡完掘状況

第61号住居跡竈遺物出土状況

第64号住居跡竈遺物出土状況

第65号住居跡完掘状況

第66号住居跡完掘状況

第67号住居跡竈完掘状況

第68号住居跡完掘状況

第69号住居跡完掘状況

第77号住居跡炭化材出土状況

第77号住居跡竈遺物出土状況

第78号住居跡完掘状況

第80号住居跡完掘状況

第80号住居跡遺物出土状況

第81号住居跡遺物出土状況

第83号住居跡遺物出土状況

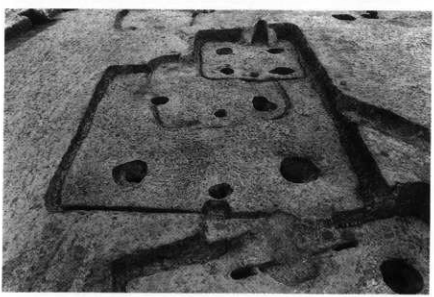
第86号住居跡遺物出土状況

第87号住居跡完掘状況

第88号住居跡竈完掘状況

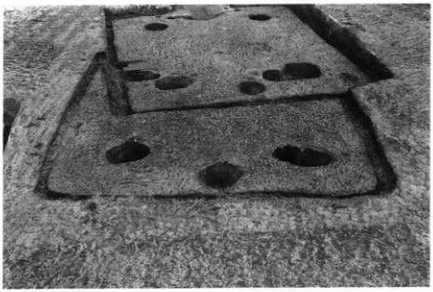
第90号住居跡遺物出土状況

第92号住居跡竈遺物出土状況



第93・94・97住居跡完掘状況

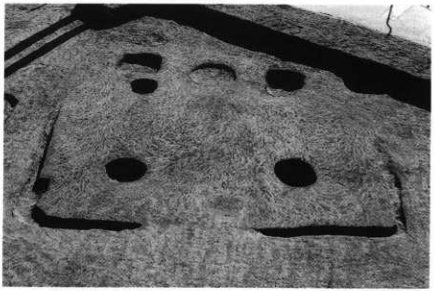
第93・94・97住居跡
遺物出土状況



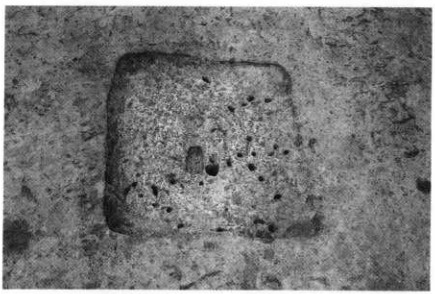
第95号住居跡完掘状況

第97号住居跡完掘状況

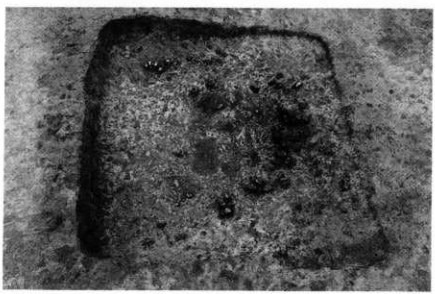
第97号住居跡置き竈出土状況



第98号住居跡完掘状況

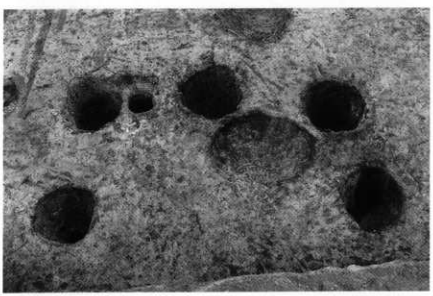


第1号鍛冶工房跡完掘状況



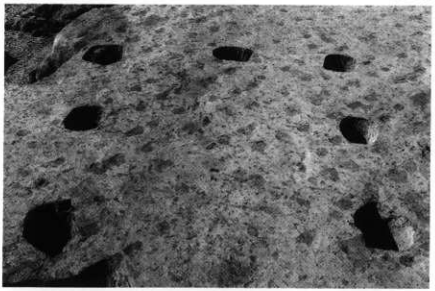
第1号鍛冶工房跡遺物出土状況

第1号掘立柱建物跡完掘状況



第2号掘立柱建物跡完掘状況

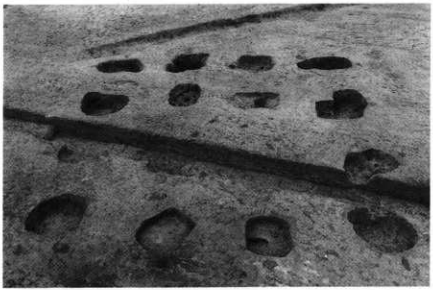
第6号掘立柱建物跡完掘状況



第7号掘立柱建物跡完掘状況

第11号掘立柱建物跡
遺物出土状況

第12号掘立柱建物跡完掘状況



第13A・B号掘立柱建物跡
完掘状況

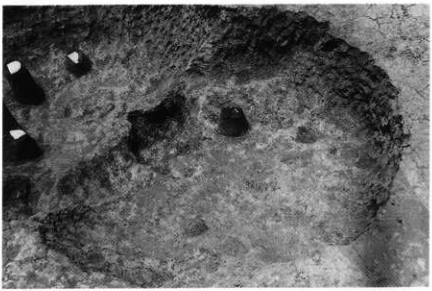
第14号掘立柱建物跡完掘状況

第16号掘立柱建物跡完掘状況

第17号掘立柱建物跡完掘状況

第19号土坑遺物出土状況

第21号土坑遺物出土状況



第22号土坑遺物出土状況

第242号土坑遺物出土状況

第1号大形竪穴状遺構
完掘状況

第1号大形竪穴状遺構
遺物出土状況

第2号大形竪穴状遺構
完掘状況

第2号大形竪穴状遺構
遺物出土状況

第2号溝完掘状況

第8号溝完掘状況

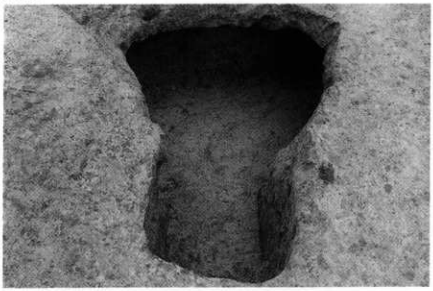
第6号溝完掘状況

第1号溝完掘状況

第1A・B号地下式壙
完掘状況

第2A・B号地下式壙
完掘状況

第3号地下式壙完掘状況



第5号地下式壙完掘状況

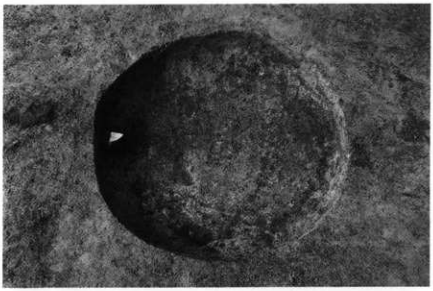
第1号方形竪穴遺構完掘状況

第1号方形竪穴遺構
遺物出土状況

第4号方形竪穴遺構完掘状況

第5号方形竪穴遺構完掘状況

第6号方形竪穴遺構完掘状況



第62号土坑遺物出土状況

第132～135・138～150
223・224号土坑完掘状況

第168～178・186・187・
191～196・208～221完掘状況

SI60-49

SI16-4

SI60-51

SI60-50

SI40-19

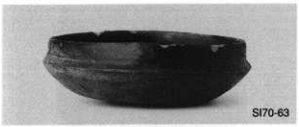
SI60-52

SI51-38

SI63-61

SI70-107

PL 40


SI70-63

SI70-64

SI70-66

SI70-75

SI70-73

SI70-68

SI70-67

SI70-69

SI70-65

SI70-77

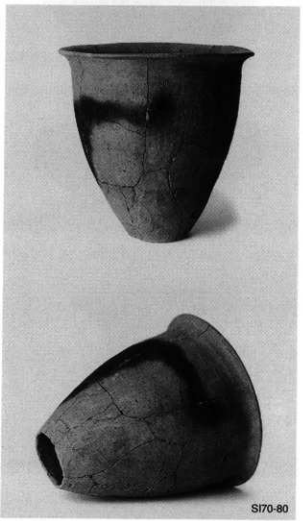
SI70-74

SI75-84

SI70-76

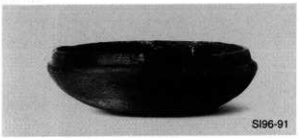
SI75-83

SI70-78


SI70-80

SI70-79

PL 42


SI96-91

SI96-94

SI96-89

SI96-95

SI96-90

SI96-97

SI82-85

SI96-96

SI96-862

SI96-93

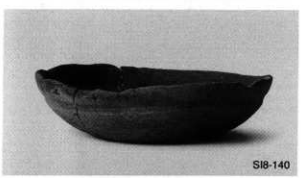
SI96-88

SI2-118

SI5-128

SI2-117

SI9-161


SI8-140

SI8-139

SI8-142

SI6-131

SI9-160

SI8-141

PL 44

SI20-186

SI13-174

SI13-172

SI12-165

SI9-155

SI9-156

SI13-168

SI13-856

SI25-218

SI21-205

SI21-202

SI21-201

SI27-235

SI26-223

SI22-207

SI27-239

SI22-209

SI20-191

SI28-247

SI28-246

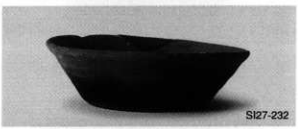
SI35-275

SI34-265

SI27-234

SI34-264

SI28-245


SI27-232

SI28-244

SI27-233

SI33-257

SI27-228

SI43-322

SI39-290

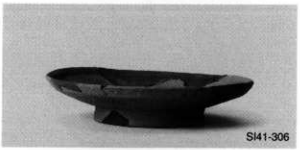
SI39-289

SI43-314

SI46-330

SI41-292

SI41-299


SI41-306

SI43-320

SI43-315

PL 48

SI53-372

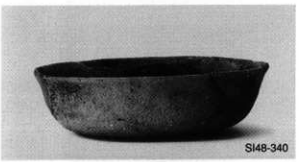
SI52-363

SI49-343

SI52-351

SI56-378

SI53-371


SI48-340

SI56-377

SI52-354

SI53-370

SI66-406

SI64-401

SI68-422

SI67-417

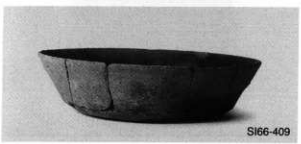
SI67-416

SI65-405

SI64-402

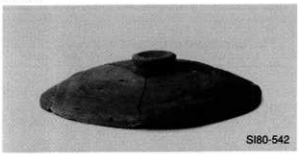
SI61-396

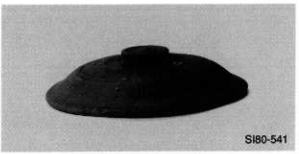
SI68-423


SI66-409

SI67-413

PL 50


SI80-542


SI80-541

SI77-448

SI69-431

SI80-503

SI77-449

SI80-527

SI80-569

SI80-526

SI77-439

SI80-504

SI80-506

SI80-469

SI80-554

SI80-508

SI80-472

SI80-499

SI80-473

SI80-568

PL 52

SI86-625

SI81-594

SI81-593

SI83-603

SI83-608

SI83-602

SI80-512

SI86-637

SI92-677

SI88-655

SI93-685

SI97-730

SI94-699

SI94-698

第1号大形竪穴状遺構-778

SK242-809

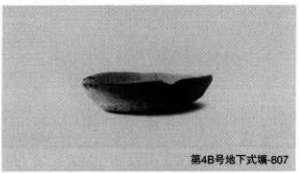
SI86-620

SI88-654

第2号大型竪穴遺構-734

SD1-826

第1号大形竪穴状遺構-779


第4B号地下式壙-807

第1号大形竪穴状遺構-780

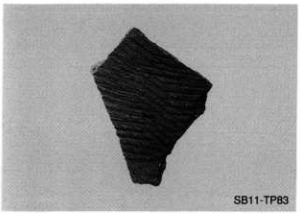
第2号大型竪穴遺構-736

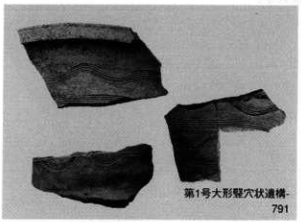
第1号大形竪穴状遺構-782

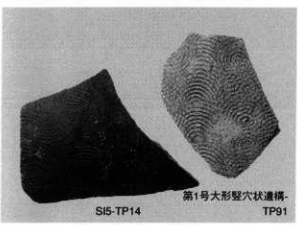
第2号大型竪穴遺構-737

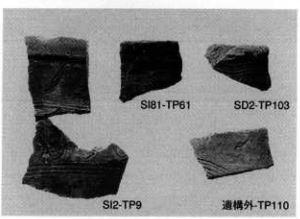
第1号方形竪穴遺構-853

SD1-820

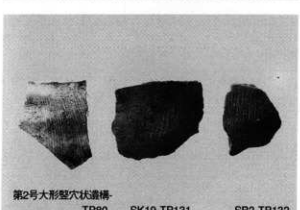

SB11-TP83


第1号大形竪穴状遺構-
791


SI5-TP14
第1号大形竪穴状遺構-
TP91

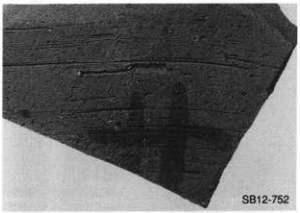

SI81-TP61
SD2-TP103
SI2-TP9
遺構外-TP110

第1号不明遺構-
TP100


第2号大形竪穴状遺構-
TP80
SK19-TP131
SB2-TP132

第1号地下式壙
TP94
第2B号地下式壙
TP95
第2A号地下式壙
TP96

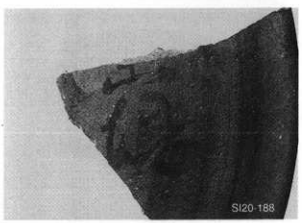
PL 56


SB12-752

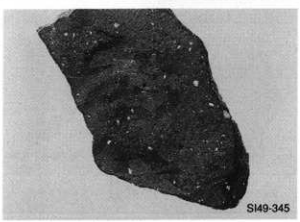
第2号大型竪穴状遺構-736

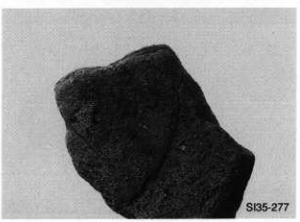
SI56-379

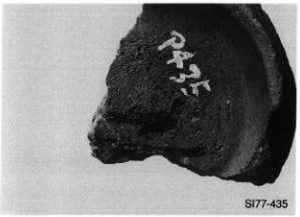
SI52-351


SI20-188

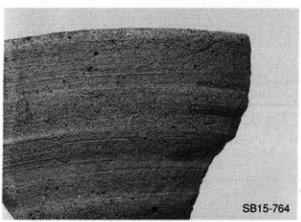
SI8-140

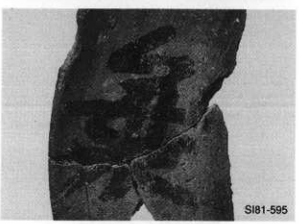

SI49-345

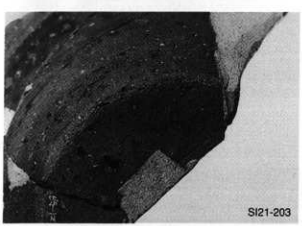

SI35-277


SI77-435

SI81-593


SB15-764


SI81-595


SI21-203

SI81-596

SK19-769

SI86-625

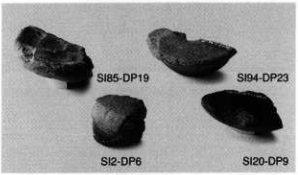
第1号鍛冶工房跡-DP11

第1号鍛冶工房跡-DP12

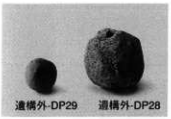
SI4-DP31

遺構外-DP30　SI74-DP32

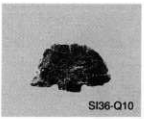
SI86-DP20


SI85-DP19　SI94-DP23　SI2-DP6　SI20-DP9

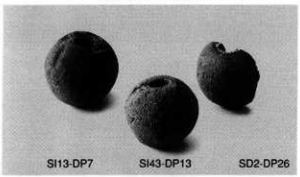
SI97-DP33


遺構外-DP29 遺構外-DP28

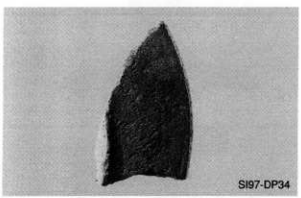
SK22-Q24

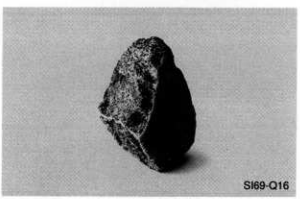

SI36-Q10

SI2-Q2

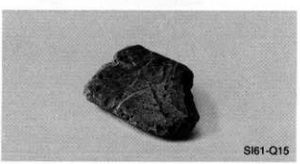

SI13-DP7 SI43-DP13 SD2-DP26

第1号鍛冶工房跡-Q13

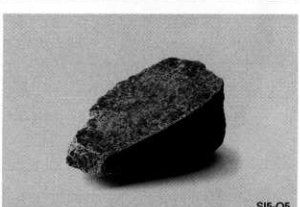

SI97-DP34


SI69-Q16

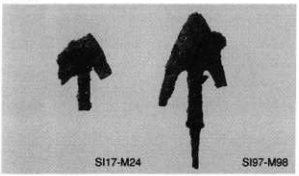
遺構外-Q44

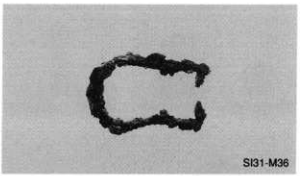

SI61-Q15

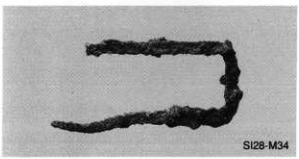
SI80-Q19

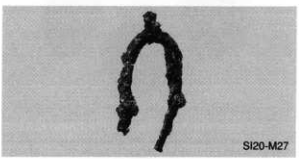

SI5-Q5

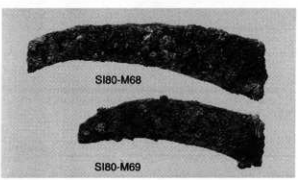
PL 60

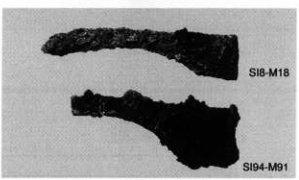

SI17-M24
SI97-M98

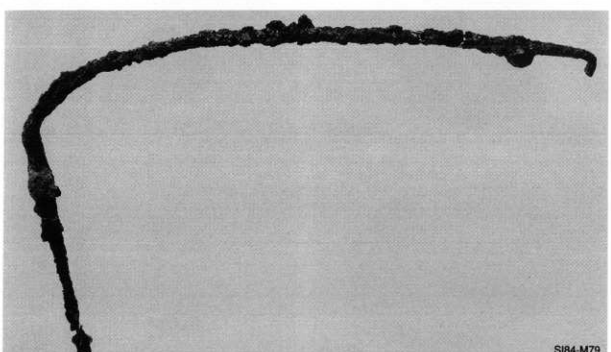

SI31-M36

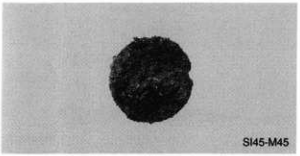

SI28-M34

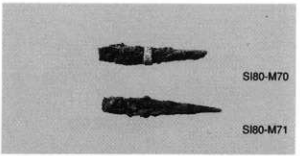

SI20-M27

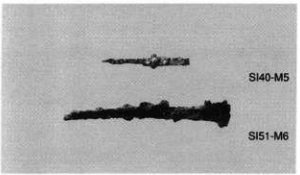

SI80-M68
SI80-M69

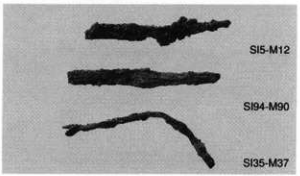

SI8-M18
SI94-M91

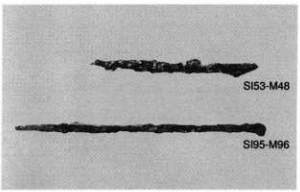

SI84-M79

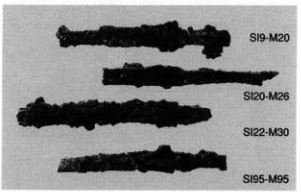

SI45-M45

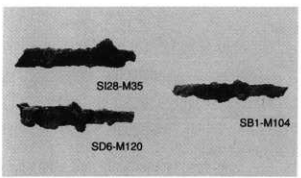

SI80-M70
SI80-M71

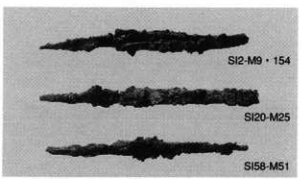

SI40-M5
SI51-M6

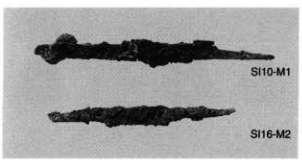

SI5-M12
SI94-M90
SI35-M37

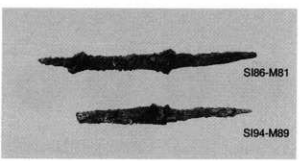

SI53-M48
SI95-M96

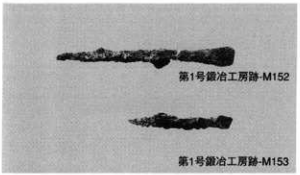

SI9-M20
SI20-M26
SI22-M30
SI95-M95

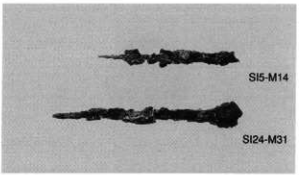

SI28-M35
SB1-M104
SD6-M120

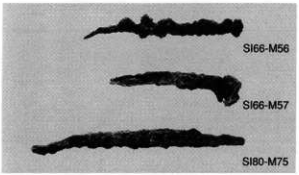

SI2-M9・154
SI20-M25
SI58-M51

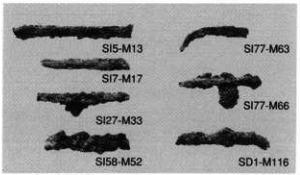

SI10-M1
SI16-M2

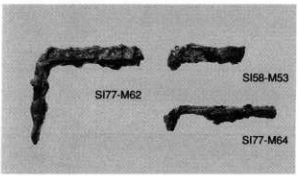

SI86-M81
SI94-M89

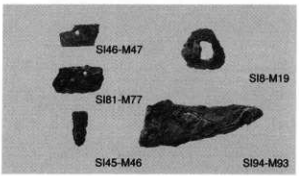

第1号鍛冶工房跡-M152
第1号鍛冶工房跡-M153

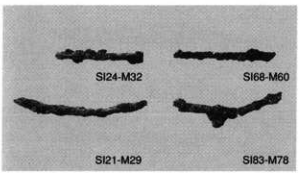

SI5-M14
SI24-M31

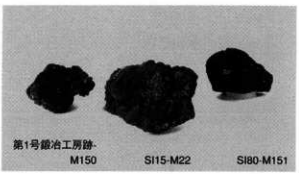

SI66-M56
SI66-M57
SI80-M75

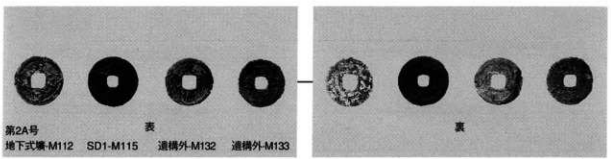

SI5-M13
SI77-M63
SI7-M17
SI77-M66
SI27-M33
SI58-M52
SD1-M116

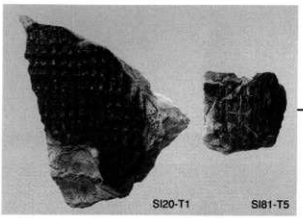

SI58-M53
SI77-M62
SI77-M64

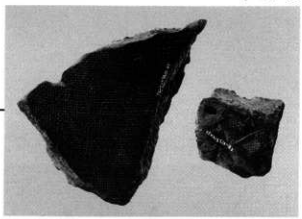

SI46-M47
SI8-M19
SI81-M77
SI45-M46
SI94-M93

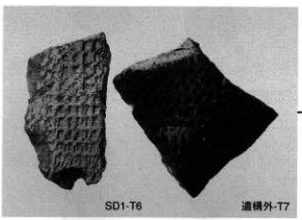

SI24-M32
SI68-M60
SI21-M29
SI83-M78

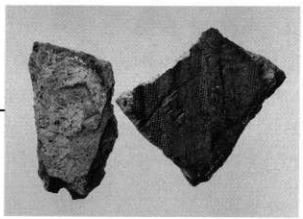

第1号鍛冶工房跡-
M150
SI15-M22
SI80-M151

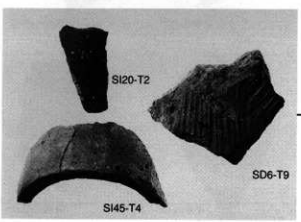

第2A号
地下式壙-M112
SD1-M115
遺構外-M132
遺構外-M133
表
裏

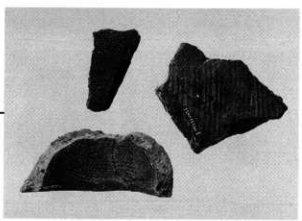

SI20-T1
SI81-T5




SD1-T6
遺構外-T7




SI20-T2
SD6-T9
SI45-T4

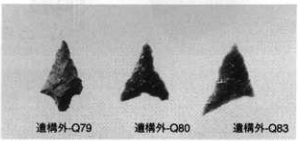


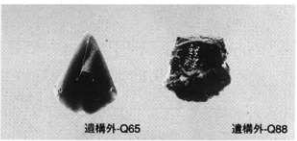
遺構外-TP119
遺構外-TP120
遺構外-TP121
遺構外-TP123
遺構外-TP124
遺構外-TP129

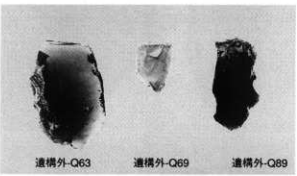
遺構外-TP130
遺構外-TP126
遺構外-TP128

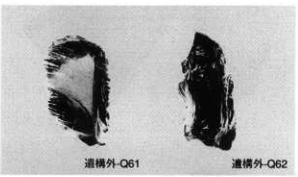
遺構外-Q82

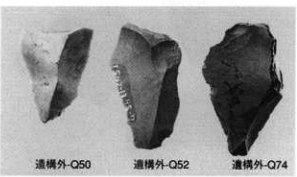
遺構外-Q37 遺構外-Q46

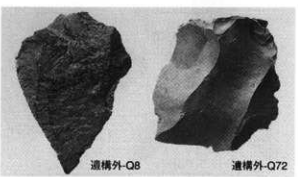

遺構外-Q79 遺構外-Q80 遺構外-Q83

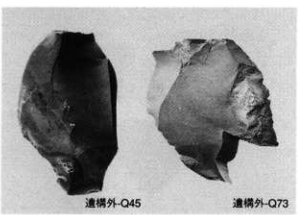

遺構外-Q65 遺構外-Q88


遺構外-Q63 遺構外-Q69 遺構外-Q89


遺構外-Q61 遺構外-Q62


遺構外-Q50 遺構外-Q52 遺構外-Q74


遺構外-Q8 遺構外-Q72


遺構外-Q45 遺構外-Q73

遺構外-Q38

茨城県教育財団文化財調査報告第201集

島名八幡前遺跡

平成15（2003）年3月20日　印刷
平成15（2003）年3月26日　発行

発行　財団法人　茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029-225-6587

印刷　株式会社　高野高速印刷
〒310-0853 水戸市平須町1822-122
TEL　029-305-5588

付　　図

茨城県教育財団文化財調査報告第201集

島名八幡前遺跡遺構全体図

付図　島名八幡前遺跡遺構全体図「茨城県教育財団文化財調査報告第201集　島名八幡前遺跡」